



取扱説明書



運転する前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。

SILVER WING GT<600>
SILVER WING GT<600>ABS

Honda車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみください。

お車の引き渡しについて

★お買いあげになりましたら、Honda販売店にてこの取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記の説明を受けてください。

- お車の正しい取扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

排出ガス規制について

★この車は排出ガス規制適合車です。

SILVER WING GT〈600〉

SILVER WING GT〈600〉ABS

(EBL-PF02 型):

平成19年排出ガス規制適合車

運転免許について

★この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認してください。

この車の排気量：582 cm³(cc)

排気量により必要な免許が異なります。

★この車の乗車定員は、運転者を含め2人です。
なお、運転免許を取得後1年未満の方は、法令により2人乗りはできません。

お車について

《SILVER WING GT〈600〉》

★この車は、連動ブレーキシステムを装備しています。

詳細については、17 ページを参照ください。

《SILVER WING GT〈600〉ABS》

★この車は、連動ブレーキシステム、アンチロックブレーキシステム(ABS)を装備しています。

詳細については、17 , 18 ページを参照ください。

取扱説明書について

安全に関する表示について

- ★この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。「安全に関する表示」「安全運転のために」「メンテナンスを安全に行うために」は重要ですので、しっかりお読みください。
- ★車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、メンテナンスノートもぜひお読みください。
- ★車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。
- ★車の仕様、その他の変更により、この本の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。
- ★この取扱説明書は、SILVER WING GT <600> ABSを中心に説明してあります。
- ★Honda販売店で取付けられたHondaアクセサリーなどの取扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

★安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

★その他の表示



アドバイス

お車のために守っていただきたいこと



知識

知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

目 次

安全運転のために	6	警告灯・表示灯	27
触媒装置について	14	油圧警告灯	27
各部の名称	15	アンチロックブレーキシステム	
連動ブレーキシステム	17	(ABS)警告灯	28
アンチロックブレーキシステム(ABS)	18	PGM-FI警告灯	29
メータの見かた、使いかた	19	イモビライザーシステム	
計器類	19	(HISS)表示灯	30
速度計(スピードメータ)	19	パーキングブレーキ警告灯	32
モードボタン	19	Vベルト表示灯	32
リセットボタン	19	方向指示器表示灯	33
エンジン回転計(タコメータ)	20	前照灯上向き表示灯	
水温計	21	(ハイビームパイロットランプ)	33
燃料計	21	T(登坂)モード表示灯	33
ディスプレイ	22	スイッチの使いかた	34
積算距離計(オドメータ)	23	メインスイッチ	34
区間距離計(トリップメータ)	23	前照灯上下切換えスイッチ	
燃費計	24	(ヘッドライト上下切換えスイッチ)	36
時計	25	パッシングライトスイッチ	36

エンジンストップスイッチ	37
スタータスイッチ	38
ホーンスイッチ	39
方向指示器スイッチ	40
非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)	41
走行モード切換えスイッチ	42
装備の使いかた	43
イモビライザーシステム(HISS)	43
ハンドルロック	49
シート	50
アジャスタブルバックレスト	51
ヘルメットホルダ	52
パーキングブレーキ	53
右グローブボックス	54
左グローブボックス	55
トランク	57
ラゲージランプ	58
書類・携帯工具入れ	59
リヤクッションの調整	60

燃料の補給	61
正しい運転操作	64
エンジンのかけかた	64
スタートするとき	69
正しい走りかた	71
ブレーキの使いかた	72
止まりかた	75

目 次

メンテナンスを安全に行うために	78	冷却水	100
日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス	81	冷却水量の点検	100
日常点検	83	冷却水の補給	101
定期点検	86	バッテリー	103
簡単なメンテナンス	87	バッテリーターミナル部の清掃	104
ブレーキ	88	バッテリーの取付け、取外し	105
ブレーキ液の量の点検	88	ヒューズ	106
ブレーキパッドの摩耗の点検	89	ヒューズの点検、交換	106
パーキングブレーキ	90	ファイナルギヤオイル	112
パーキングブレーキの点検	90	オイル量の点検	112
タイヤ	91	オイル漏れの点検	113
空気圧の点検	91	エアクリーナ	114
亀裂と損傷の点検	92	エアクリーナエレメントの交換	114
異状な摩耗の点検	93	ベルトケースエアクリーナ	117
溝の深さの点検	93	ベルトケースエアクリーナの 点検、清掃	117
交換タイヤの選択について	94	ケーブル・ワイヤ類	118
エンジンオイル	95	ラバーブーツの点検	118
オイル量の点検	95	ケーブル・ワイヤ類の点検	118
オイルの補給	96	ブリーザドレン	119
		ブリーザドレンの清掃	119

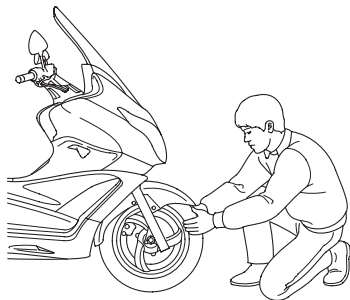
車のお手入れ	120
ウインドスクリーンの取扱い	123
シートの取扱い	123
アルミ部品の取扱い	124
つや消し塗装の取扱い	124
エキゾーストパイプの取扱い	125
保管のしかた	126
地球環境の保護について	127
お車および部品等の廃棄をするとき	127
色物部品をご注文のとき	130
マフラの純正マークについて	130
フレーム号機	131
オーバーヒートしたとき	132
エンジンが始動しないとき	133
主要諸元	134
サービスデータ	136

安全運転のために

ここであげた項目は、日常この車を取扱う上で必要な基本的なものです。これらの項目をいつもお守りいただき、安全運転を心がけてください。

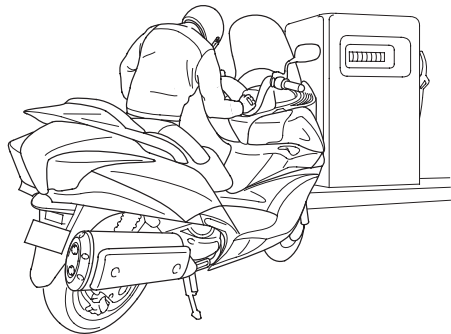
運転する前に

- 日常点検を行ってください。
車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
日常点検は、83 ページ参照。

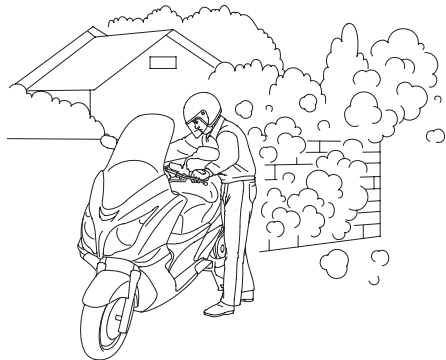


- 定期点検を実施してください。
定期点検は、86 ページ参照。

- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。



安全運転のために

服装

- 運転者と同乗者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。ヘルメットの着用は、あごひもを確実に締めるなど、正しく行ってください。ヘルメットは二輪車でPSC、SGマークかJISマークのあるものをお勧めします。頭にしっかりと合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服を着用してください。
 - ・フェイスシールドまたはゴーグルの使用
 - ・くるぶしまで覆う靴の着用
 - ・摩擦に強い皮製の手袋の着用
 - ・長ズボンと長袖のジャケットの着用
 - －明るく目立つ色の動きやすい服装で体の露出の少ないものを着用してください。
 - －すその広いズボンや袖口の広いジャケットは、ブレーキ操作などの運転動作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

警告

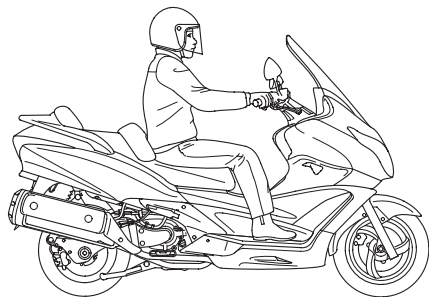
ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

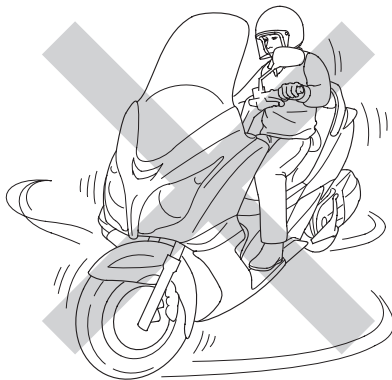


乗りかた

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。
- 同乗者は、両足を後席用ステップに置き、両手からだを保持してください。運転者は、同乗者の乗車姿勢を確認してください。



- 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。



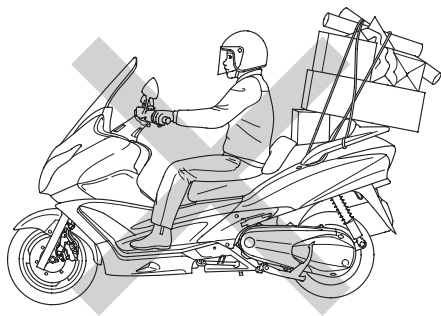
安全運転のために

荷物

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。積載するときは、“積み過ぎない”、“荷物を固定する”など十分注意し、安全に走行してください。
- ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作ができなくなる場合があります。物を置かないでください。
- ヘッドライトレンズの前を荷物等でさえぎらないでください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。

- レンガや鉄片等、固くて重いものをトランクに入れたまま走行しないでください。積載重量以内でもトランク本体が損傷する場合があります。

トランクへの最大荷物重さ；**10.0 kg**
右グローブボックスと左グローブボックスへの合計の最大荷物重さ；**1.5 kg**



改造

- 車の構造や機能に関する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。

不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。

このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。

- この車は平成19年排出ガス規制適合車です。排出ガス濃度を劣化させるような不正改造は行わないでください。また、マフラには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラをこの車に取付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラを交換する場合は、Honda販売店にご相談ください。

安全運転のために

駐車

駐車するときは

盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜いてお持ちください。チェーンロック等のご使用もおすすめします。

- 水平でしっかりした地面の場所に駐車してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- やむをえず傾斜地、砂利を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟らかい所等に駐車せざるを得ないときは、車の転倒・動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。

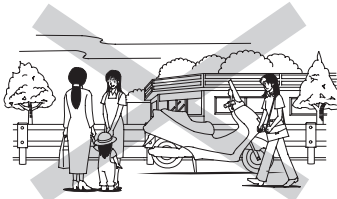
サイドスタンドでの駐車について

車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。

ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。

パーキングブレーキをかけて駐車しましょう。

- マフラなどが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。



- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。



⚠ 注意

マフラ、エンジンなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。このとき、マフラ、エンジンなどに触れるとヤケドを負う可能性があります。

- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の方がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

触媒装置について

触媒装置の働き

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。

触媒装置の働きにより、排出ガスに含まれる一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)、窒素酸化物(NOx)の3つの有害物質の排出量を低減します。

可燃物には注意を

触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

触媒装置を大切に

不適切な取扱いをすると触媒温度が異常に高くなり焼損するおそれがありますので、次のような取扱いはしないでください。

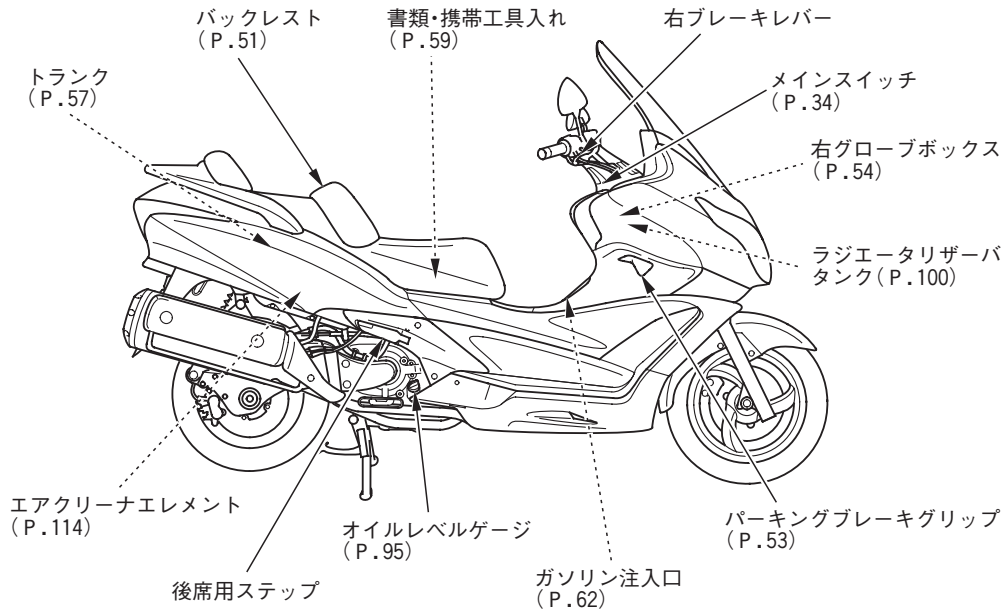
《不適切な取扱いの例》

- 走行中にメインスイッチのキーを操作すること。
- エンジンを止めるとき、空ぶかし直後にメインスイッチのキーを切ること。

触媒装置が損傷したまま使用すると排出ガス濃度を劣化させるだけでなく、この車本来の性能を発揮できなくなりますので次のことをお守りください。

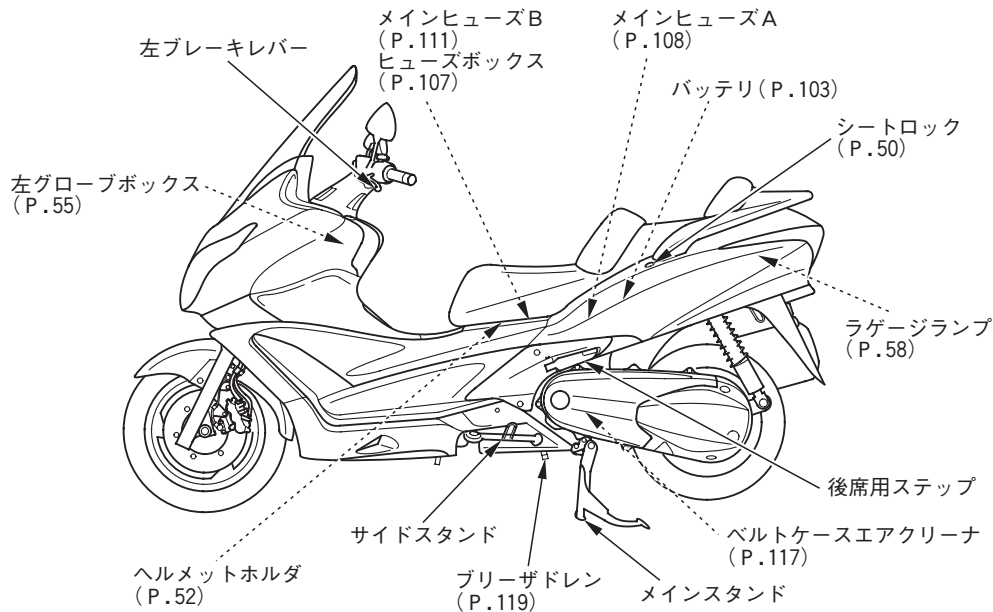
- 燃料は必ず無鉛ガソリンをご使用ください。
- 定められた点検整備を実施してください。
- 点火系、充電系、燃料系の不調は触媒装置に大きく影響を与えますので、エンジン不調を感じたときはただちにHonda販売店で点検を受けてください。

各部の名称



《イラストは、SILVER WING GT〈600〉ABS》

各部の名称



《イラストは、SILVER WING GT〈600〉ABS》

連動ブレーキシステム

連動ブレーキシステム

- 左ブレーキレバーを操作すると後輪ブレーキが作動するとともに前輪ブレーキが作動します。
- 右ブレーキレバーを操作すると前輪ブレーキが作動します。

ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

アンチロックブレーキシステム (ABS)

《SILVER WING GT〈600〉ABS》

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、直進制動時のブレーキのかけすぎによる“車輪ロック”を制御する装置です。

ブレーキ操作をしたとき、ブレーキレバーに反動が生じることがあります。

これは、ABSが作動しているときの現象で異状ではありません。そのまま、ブレーキ操作を続けてください。

知識

- この装置は制動距離を短くするためのものではありません。ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
- 車両を確実に停止させるため、低速 (約10 km/h以下) ではABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- ABS作動時の反動の強さは、ブレーキを操作する力や、路面の状況によって異なります。
- タイヤは必ず前後輪とも指定タイヤをお使いください。サイズ (外径) の異なるタイヤを使用すると、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

メータの見かた、使いかた

計器類

メインスイッチのキーを“ON”の位置にすると、速度計(スピードメータ)とエンジン回転計(タコメータ)の指針は、一度最高目盛に振れた後、“0”に戻ります。

水温計と燃料計の指針は、一度最高目盛に振れてから最下端位置に戻り、その後現在の水温と燃料残量を指します。

速度計(スピードメータ)

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

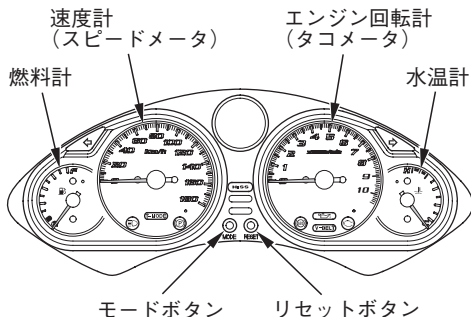
モードボタン

積算距離計(オドメータ)、区間距離計(トリップメータ)の表示切換え(23ページ)、時刻合わせ(25ページ)やイモビライザーシステム(HISS)表示灯の点滅/非点滅の設定(31ページ)を行います。

リセットボタン

区間距離計(トリップメータ)のリセット(23ページ)、時刻合わせ(25ページ)やイモビライザーシステム(HISS)表示灯の点滅/非点滅の設定(31ページ)を行います。

安全運転に支障をきたすおそれがありますので走行中はモードボタン、リセットボタンの操作は行わないでください。



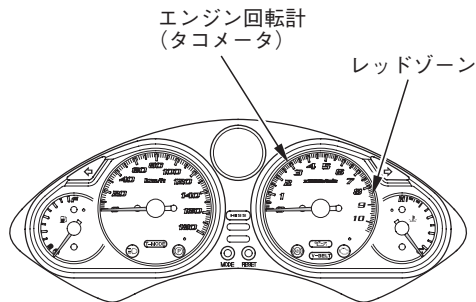
メータの見かた、使いかた

エンジン回転計(タコメータ)
エンジンの回転数を示します。

エンジン回転数がレッドゾーンに入らないようにしてください。

アドバイス

- 空ぶかし及び急加速はレッドゾーンに入りやすいので特に注意してください。
レッドゾーンとはエンジンの限界回転域を示したものです。レッドゾーン以上で使用するとエンジン回転が不円滑になり、エンジン寿命に悪影響を与えるだけでなく、最悪の場合エンジンがこわれます。



水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

エンジン回転中は、指針が目盛の赤マークより低温側にあるのが正常です。

指針が赤マークを指した場合、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。

処置手順は、132 ページ参照。

アドバイス

- 指針が赤マークを指したまま、走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

知識

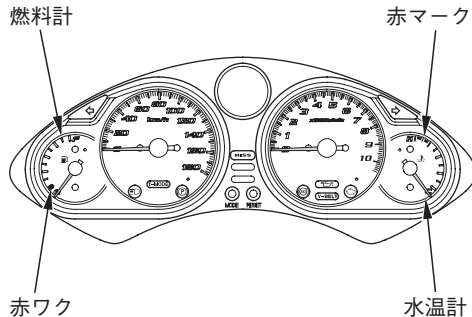
- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより、指針が赤マークを指す場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、またはエンジンが冷えるまで停止してください。

燃料計

燃料タンク内のガソリンの量を示します。

指針が赤ワクに入りかけたときは、早めにガソリンを補給してください。

このときの燃料残量；約 3.4 ℓ



メータの見かた、使いかた

ディスプレイ

時計、燃費計、区間距離計(トリップメータ)、積算距離計(オドメータ)の表示を行います。

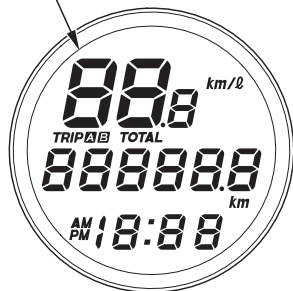
《初期表示》

メインスイッチのキーを“ON”の位置にすると、すべての表示があらわれます。

このとき表示されない部分がある場合は、お買い上げのHonda販売店で点検を受けてください。

約2秒後に通常表示となります。

初期表示



[積算距離計、区間距離計]

積算距離計(オドメータ)

走行した総距離をkmの単位で示します。

区間距離計(トリップメータ)

メータをリセット(“0”に戻す)した時点からの走行距離を示します。

区間距離計(トリップメータ)には“TRIP A”、“TRIP B”のモードがあります。

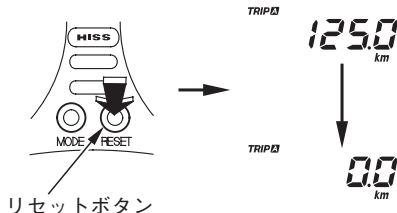
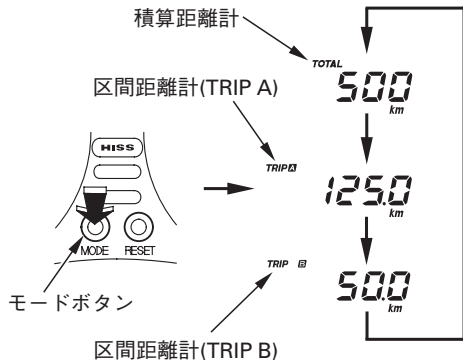
表示の切換え

モードボタンを押すごとに表示が右図のように変わります。

区間距離計のリセット

“TRIP A”または“TRIP B”の状態ではリセットボタンを2秒以上押し続けます。

リセットのときは表示されている方だけ(例えば“TRIP A”が表示されていれば“TRIP A”だけ)がリセットされます。



メータの見かた、使いかた

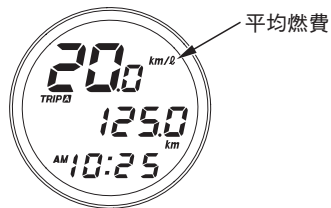
[燃費計]

平均燃費

TRIP Aと連動し、平均燃費を約15秒ごとに更新して、km/ℓの単位で表示します。

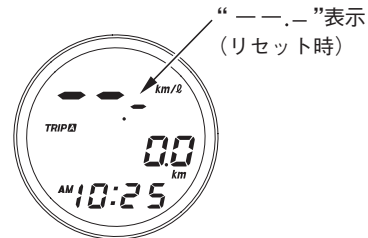
TRIP Aをリセットしてから次にリセットするまでの平均燃費を表示します。

TRIP Aをリセットすると平均燃費表示は“—.—”になります。



知識

- 表示される燃費値は実際に走行した燃費と異なる場合があります。
経済運転をする上での目安としてご利用ください。

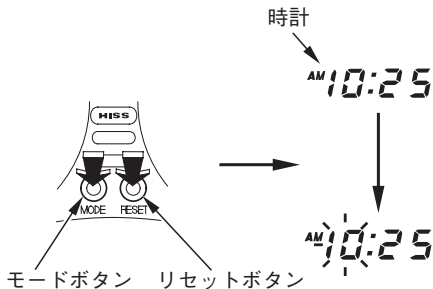


【時計】

時計は12時間表示で時刻を表示します。

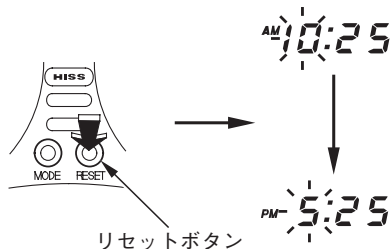
《時刻の合わせ方》

1. メインスイッチのキーを“ON”の位置にします。
2. モードボタンとリセットボタンを同時に2秒以上押し続けます。時計が時刻修正モードに切り変わり、“時”の表示が点滅します。



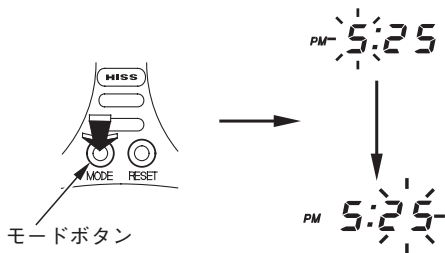
3. リセットボタンを押し“時”を修正します。ボタンを1回押すと数字はひとつだけ進み、ボタンを押し続けると数字が進みつづけます。ただし数字は12から1へ戻ります。

“時”が11から12に切りかわるときに、“AM”、“PM”が切りかわります。

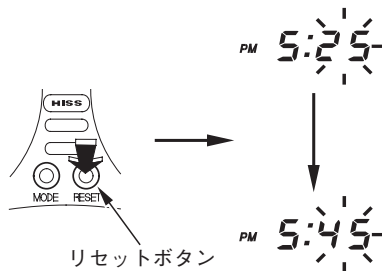


メータの見かた、使いかた

4. モードボタンを押して“時”を決定します。そのとき表示は“分”が点滅します。



5. リセットボタンを押し、“分”を修正します。ボタンを1回押すと数字はひとつだけ進み、ボタンを押し続けると数字が進みつづけます。ただし数字は59から00に戻ります。



6. モードボタンを押す、またはメインスイッチを“OFF”にしてください。表示の点滅が消え、通常表示に戻ります。

時刻修正時、約2分間ボタンの操作がない場合、時計の修正は無効となり、修正前の時刻に戻ります。

警告灯・表示灯

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。

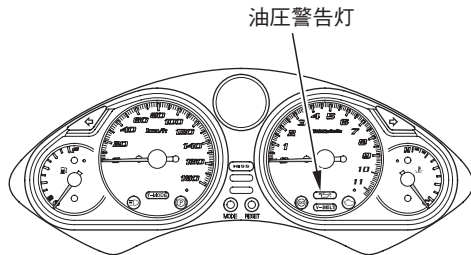
エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにHonda販売店にご相談ください。エンジンオイル量の点検は、95 ページ参照。

アドバイス

- 油圧警告灯が点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

知識

- 油圧警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると同時に消灯するのが正常です。



メータの見かた、使いかた

《SILVER WING GT〈600〉ABS》

アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

ABS警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し、走行(車速約10 km/h以上)すると消えるのが正常です。

警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店にご相談ください。

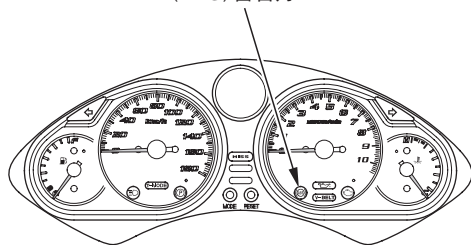
- 運転中に点灯または点滅したとき。
- メインスイッチを“ON”にしても点灯しないとき。
- 10 km/h以上で走行しても消灯しないとき。

なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしての作動はしません)

知識

- ABS警告灯が消灯した状態でメインスタンドを立てるなどして後輪を空転させた場合、点滅する場合があります。この場合一度メインスイッチを“OFF”にし、再度メインスイッチを“ON”にし警告灯が点灯し、30 km/h以上の速度で走行したあとに消灯すれば正常です。

アンチロックブレーキシステム
(ABS)警告灯



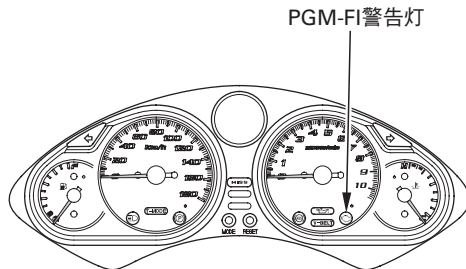
PGM-FI警告灯

エンジンストップスイッチが“○”(RUN)、メインスイッチが“ON”のときPGM-FIシステムに異常があると点灯します。

警告灯が点灯した場合は高速走行を避け、ただちにHonda販売店にご相談ください。

知識

- PGM-FI警告灯はエンジンストップスイッチを“○”(RUN)、メインスイッチを“ON”にすると点灯し数秒後に消灯するのが正常です。



メータの見かた、使いかた

イモビライザーシステム(HISS)表示灯

エンジンストップスイッチが“○” (RUN)の状態
でメインスイッチを“ON”にすると、イモビライザ
ーシステム (HISS)の作動により表示灯が点灯し、
数秒後に消灯することで、エンジンの始動が可能
であることを示します。

消灯しない場合、エンジンの始動はできません。

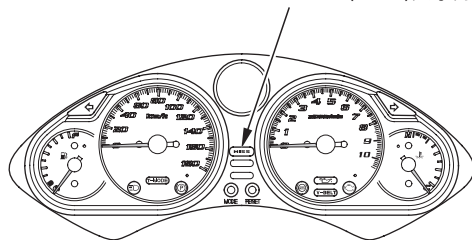
もし、消灯しない場合、メインスイッチを“OFF”に
し、キーを抜き、再度キーを差し込み、メインスイ
ッチを“ON”にしてください。それでも消灯しない
ときは、44～45 ページを確認してください。

メインスイッチを“OFF”にしたあと、24時間の間、
2秒間隔で点滅します。また、この点滅をしないよ
うにすることもできます(31 ページ参照)。

知 識

- エンジンストップスイッチが“⊗” (OFF)
の位置ではメインスイッチを“ON”にして
も、イモビライザーシステム (HISS)表示灯
は点灯しません。
エンジンストップスイッチを“○” (RUN)
にしてください。

イモビライザーシステム(HISS)表示灯



イモビライザーシステム (HISS) 表示灯は、以下の操作を行うことで、“点滅する”または“点滅しない”を設定することができます。

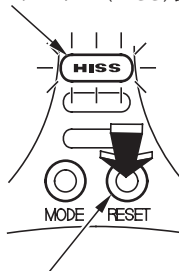
1. メインスイッチを“ON”にします。
2. モードボタンを押して積算距離計(オドメータ)表示にします。
3. リセットボタンを2秒以上押し続けます。この時、表示灯が一度点滅します。
4. メインスイッチを“OFF”にします。

イモビライザーシステム (HISS) については 43 ページを参照してください。

知 識

- メインスイッチが“OFF”のとき、イモビライザーシステム (HISS) 表示灯が点滅していても、イモビライザーシステム (HISS) は作動しています。

イモビライザーシステム (HISS) 表示灯



リセットボタン

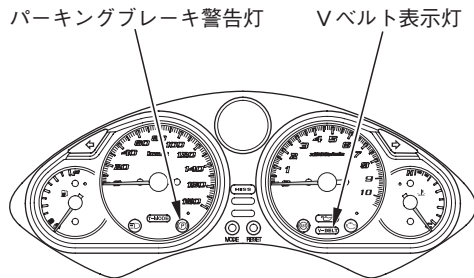
メータの見かた、使いかた

パーキングブレーキ警告灯

パーキングブレーキグリップが完全に戻っていないときに点灯します。

Vベルト表示灯

Vベルトの部品交換が必要になったときに点灯します。
表示灯が点灯した場合はHonda販売店にご相談ください。



方向指示器表示灯

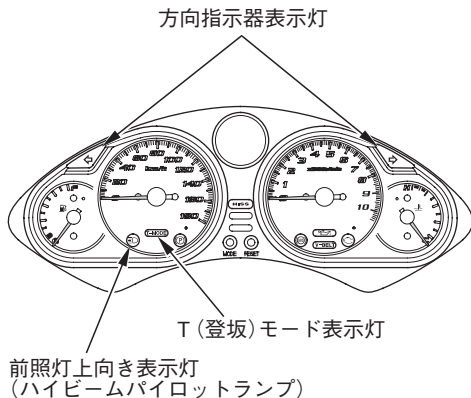
方向指示器が点滅しているときに点滅します。非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を使用しているときは、左右の表示灯が同時に点滅します。

前照灯上向き表示灯(ハイビームパイロットランプ)

照射角が上向きのときに点灯します。

T(登坂)モード表示灯

走行モードがT(登坂)モードのときに点灯します。



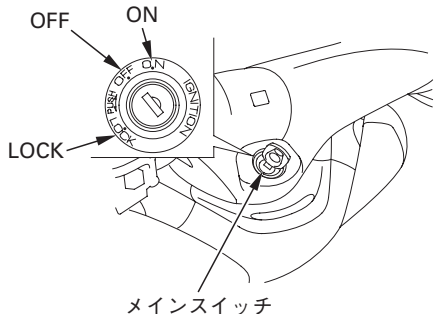
スイッチの使いかた

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。



キーの位置	作 用	キーの脱着
ON	始動・昼夜間走行 ●前照灯(ヘッドライト)などが常時点灯する ●ホーン・方向指示器・制動灯(ストップランプ)などが使える	抜けない
OFF	停止 ●電気回路を全部遮断する	抜ける
LOCK	ハンドルのロックができる ●電気回路を全部遮断する	抜ける

アドバイス

- この車はメインスイッチを“ON”にすると前照灯(ヘッドライト)が常時点灯します。エンジンをかけずに“ON”の状態にしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

知識

- 車を離れるときは、ハンドルロックをかけて必ずキーを抜いてお持ちください。

スイッチの使いかた

前照灯上下切換えスイッチ (ヘッドライト上下切換えスイッチ)

《前照灯(ヘッドライト)の上下切換え》

前照灯上下切換えスイッチを押して行います。

≡D (H I)……前照灯(ヘッドライト)が上向き

≡O (L O)……前照灯(ヘッドライト)が下向き

昼間は、下向き(ロービーム)に点灯しましょう。

パッシングライトスイッチ

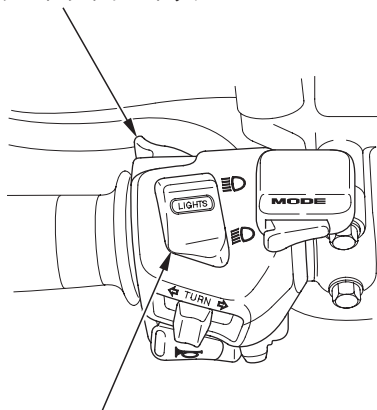
追越しのときに、自車の存在を知らせるためのものです。

《使いかた》

パッシングライトスイッチを押して行います。

前照灯上下切換えスイッチが上向きのときは作動しません。

パッシングライトスイッチ



前照灯上下切換えスイッチ
(ヘッドライト上下切換えスイッチ)

エンジンストップスイッチ

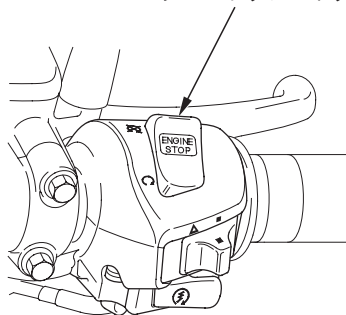
エンジンストップスイッチは、転倒など非常の場合に、手もとですぐにエンジンを止めるために設けたものです。

通常は“○”(RUN)の位置にしておいてください。

“⊗”(OFF)の位置ではエンジンはかかりません。

エンジンストップスイッチは非常の場合以外は使用しないでください。走行中にエンジンストップスイッチをRUN→OFF→RUNにすると、エンジン回転が不円滑となり、走行不安定の原因となります。またエンジンにも悪影響をおよぼすおそれがあります。

エンジンストップスイッチ



アドバイス

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止した場合、忘れずにメインスイッチを“OFF”にしてください。“ON”のままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

スイッチの使いかた


スタータスイッチ

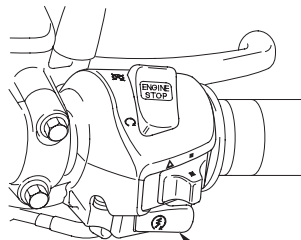
左ブレーキを強く握った状態で、スイッチを押している間、スタータモータが回転し、エンジンを始動させます。

アドバイス

- スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いため、バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

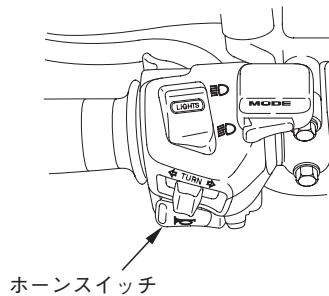
- エンジンストップスイッチが“” (OFF)のときはスタータモータは回転しません。
- サイドスタンド使用時、スタータモータは回転しません。



スタータスイッチ

ホーンスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。



スイッチの使いかた

方向指示器スイッチ

右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

《使いかた》

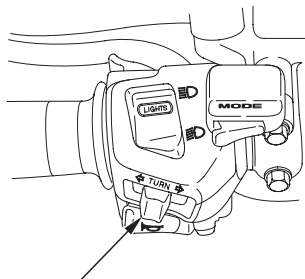
メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを入れると、方向指示器が作動します。

解除は、方向指示器スイッチを押して行います。

- ⇐ … 左に曲がる時に操作します。
- ⇒ … 右に曲がる時に操作します。

🎓 知識

- 方向指示器スイッチは、自動的に解除しません。使用後は、必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。
- 電球(バルブ)は、正規のワット数以外のものを使用すると、方向指示器が正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。



方向指示器スイッチ

非常駐車灯スイッチ (ハザードスイッチ)

スイッチを入れると、すべての方向指示器のランプが点滅します。

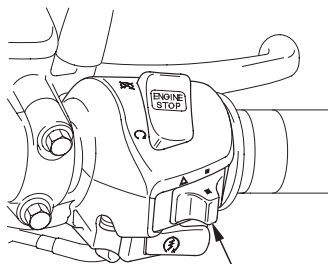
故障等で、やむを得ず路上に駐車するときに使用します。非常時にのみ使用してください。

《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にして非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を横に動かし、“ON”の位置(△マーク)に合わせます。

🏠 知識

- 完全充電のバッテリーでも約20分以上使用するとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。
- 非常駐車灯を使用した後は、必ずスイッチを解除してください。解除しないと方向指示器は作動しません。

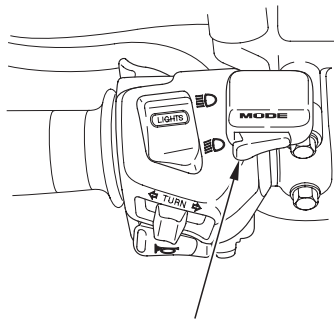


非常駐車灯スイッチ
(ハザードスイッチ)

スイッチの使いかた

走行モード切換えスイッチ

エンジン回転中に、走行モードの切換えを行います。(走行モードの詳細については74ページ参照)



走行モード切換えスイッチ

装備の使いかた

イモバイザーシステム (HISS)

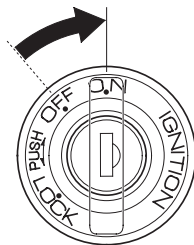
この車はイモバイザーシステム(HISS)を装備しています。

イモバイザーシステム(HISS)はメインスイッチを“ON”にしたとき、キーとメインスイッチにあるアンテナの間で通信を行い、登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにしたシステムです。

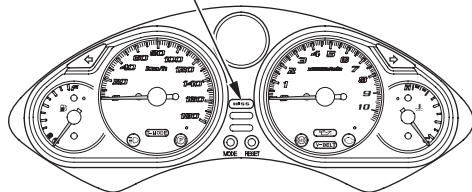
エンジンストップスイッチが“○”(RUN)の状態
でメインスイッチを“ON”にすると、イモバイザー
システム(HISS)表示灯が点灯し、数秒後に消灯
することでエンジンの始動が可能であることを示
します。

消灯しない場合、エンジンの始動はできません。

もし、消灯しない場合、メインスイッチを“OFF”に
し、キーを抜き、再度キーを差し込み、メインスイ
ッチを“ON”にしてください。それでも消灯しない
ときは、44～45 ページを確認してください。



イモバイザーシステム(HISS)表示灯



装備の使いかた

イモビライザーシステム(HISS)表示灯が消灯しないとき。

イモビライザーシステム(HISS)表示灯が消灯しないときは以下を確認してください。

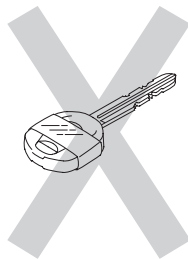
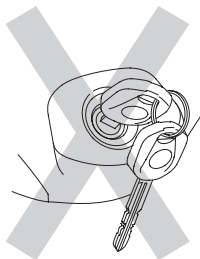
他のイモビライザーシステムのキー(予備のキーも含む)がメインスイッチの近くにある。

- 通信不良の場合があります。

メインスイッチのキーは、他のイモビライザーシステムのキー(予備のキーも含む)と分けて使用してください。

メインスイッチのキーにシール等を貼っている。

- 通信不良の場合があります。
金属シール等は、はがしてください。



登録された専用のキーを使用していない。

- 登録された専用のキーを使用しないと、イモビライザーシステム(HISS)表示灯は消灯しません。登録された専用のキーを使用してください。

壊れたキーを使用している。

- 46～47ページを確認してください。
壊れたキーを使用した場合、イモビライザーシステム(HISS)表示灯は消灯しません。
別の登録された専用のキーを使用してください。

以上のこと以外で、イモビライザーシステム(HISS)表示灯が消灯しない場合はHonda販売店にご相談ください。

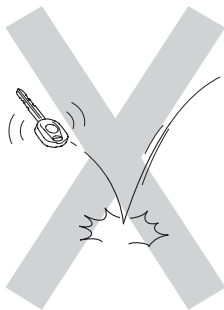
装備の使いかた

メインスイッチのキー

メインスイッチのキーにはイモビライザーシステム(HISS)の電子部品が内蔵されています。取扱いには次のことをお守りください。

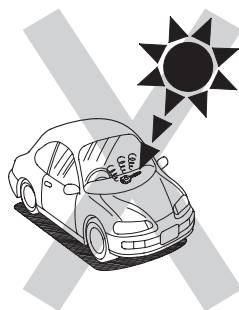
キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。

- 電子部品の破損の原因となります。



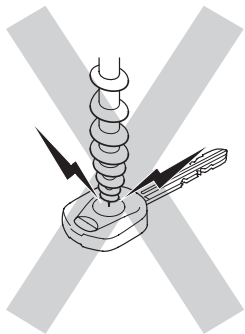
長時間、直射日光にさらしたり、高温下で放置したりしないでください。

- 電子部品のデータ異常の原因となります。



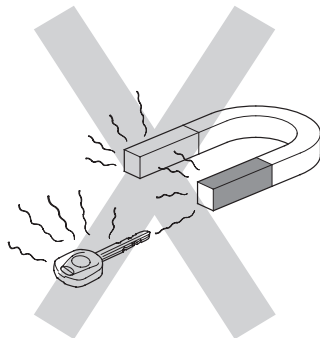
削ったり、穴を開けたりしないでください。

- 電子部品の破損の原因となります。



強い磁気を帯びた場所に置かないでください。

- 電子部品のデータ異常の原因となります。



装備の使いかた

メインスイッチのキーを紛失しないようにしてください。

- メインスイッチのキーをすべて紛失した場合、PGM-FI/IGNユニットの交換が必要になります。PGM-FI/IGNユニットの交換を避けるため、予備のキーを作成することをおすすめします。

予備のキーの作成については、専用のキーおよびイモビライザーシステム(HISS)の再登録が必要になりますので、お買い上げのHonda販売店へご相談ください。

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

《かけかた》

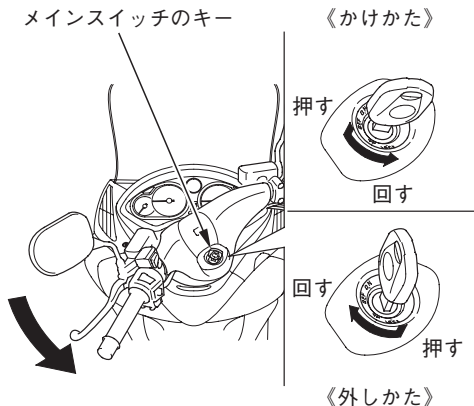
1. ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2. メインスイッチにキーを差し込みます。
3. キーを押し込みながら、“LOCK”の位置まで回します。
ロックがかかりにくい場合は、多少ハンドルを左右に動かしてください。
4. キーを抜きます。

《外しかた》

1. メインスイッチにキーを差し込みます。
2. キーを押し込みながら、“OFF”の位置まで回します。

知識

- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。



装備の使いかた

シート

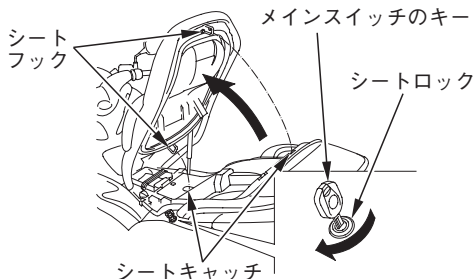
《開けかた》

メインスイッチのキーをシート左側のシートロックに差し込みます。キーを右に回しロックを外し、シートを持ち上げます。

《閉じかた》

シートをおろし、シート後部を押し下げ、ロックします。

シート後部を持ち上げ、シートフックが確実にロックされているか確認してください。



知識

- メインスイッチのキーをシートの下に置き忘れた状態でシートを押し下げると、自動的にロックされ、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。
- シートを閉めた後、完全にシートロックがかかったか確かめてください。シートロックが完全にかかっていないときは、シートロックを解除して、もう一度シートをロックしてください。ロックをかけないで走行すると、走行に支障をきたすことがあります。
- ラゲージランプスイッチが“ I ” (ON) の場合、ロックをかけないとラゲージランプが点灯したままになり、バッテリーあがりの原因になります。
- シートキャッチ周辺に荷物、布等を置かないでください。シートを閉じたときにシートフックとシートキャッチに荷物、布等がはさまり、シートが開かなくなることがあります。

アジャスタブルバックレスト

シートには、ライダーの体格や好みに合わせた最適なライディングポジションの調整が可能なバックレストが装備されています。

《調整のしかた》

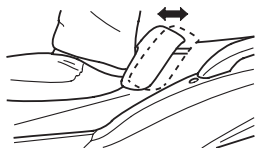
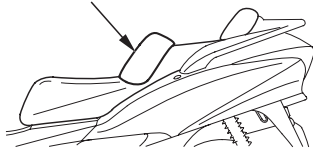
シートを開け、シート裏側のボルトを外し、バックレストを前側または後側にスライドさせて調整し、ボルトで固定してください。

バックレスト調整後、ボルトを確実に締め付けたか確かめてください。

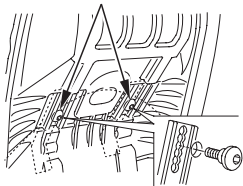
知識

- メインスイッチのキーをシートの下に置き忘れた状態でシートを押し下げると、自動的にロックされ、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。
- 洗車後や、雨天時には、バックレスト下部に残った水をふき取ってから、乗車してください。

バックレスト



ボルト



装備の使いかた

ヘルメットホルダ

ヘルメットホルダは、駐車時のみに使用するものです。

走行時に使用すると、ヘルメットが運転を妨げたり、車体に損傷を与えることがあります。また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

《使いかた》

1. シートを開けます。(50ページ参照)
2. ヘルメットホルダにヘルメットの金具をかけます。
3. シートを閉め、完全にシートのロックがかかったかを確認してください。

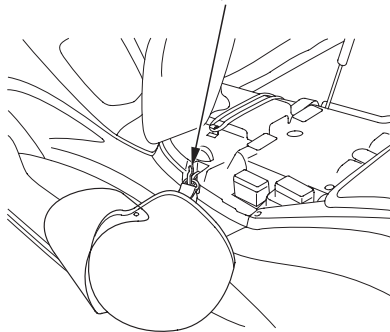
《外しかた》

- シートを開けて、ヘルメットを取外します。

知識

- メインスイッチのキーをシートの下に置き忘れた状態でシートを押し下げると、自動的にロックされ、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。

ヘルメットホルダ



パーキングブレーキ

この車には、駐車時などに使用する、パーキングブレーキが装備されています。

《かけかた》

パーキングブレーキグリップを手前に引くと、後輪がロックします。

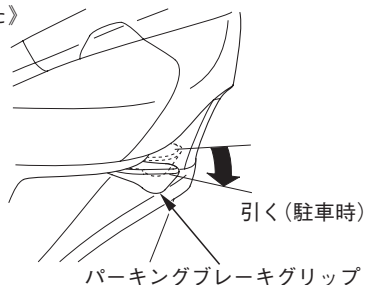
《外しかた》

パーキングブレーキグリップを一度手前に引いてから、前方に戻すと、後輪のロックが外れます。パーキングブレーキ警告灯が消灯しているか確認してから走行してください。

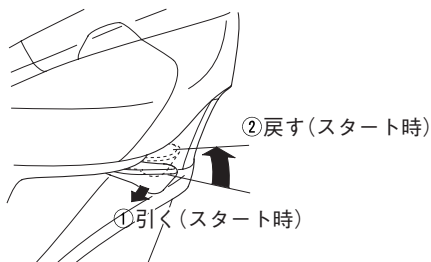
知識

- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

《かけかた》



《外しかた》



装備の使いかた

右グローブボックス

メータの右下に右グローブボックスがあります。

右グローブボックスと左グローブボックス(55ページ参照)への荷物の積載は、合計で **1.5 kg** までです。

走行中にカバーの開閉は、行わないでください。

《開けかた》

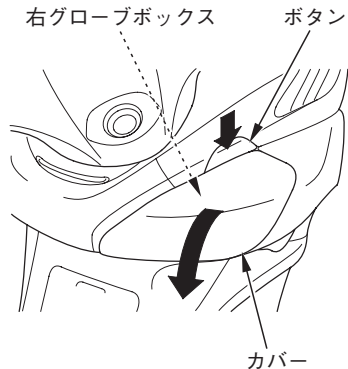
ボタンを押し、カバーを開けます。

《閉じかた》

カバーがロックするまで完全に閉じてください。
カバーが確実にロックされているか確認してください。

知識

- 貴重品やこわれやすいものは入れないでください。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。



左グローブボックス

メータの左下に左グローブボックスがあります。

左グローブボックスと右グローブボックス(54ページ参照)への荷物の積載は、合計で 1.5 kg までです。

走行中にカバーの開閉は、行わないでください。

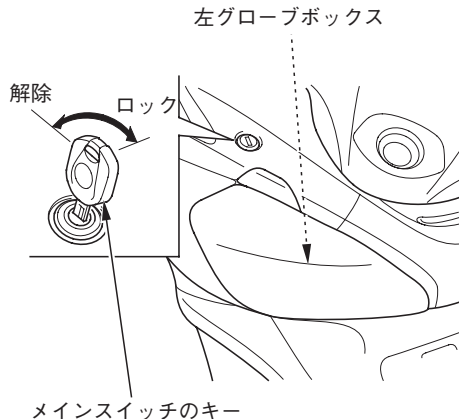
- 左グローブボックスにはキーロックがついています。キーロックはカバーを完全に閉じた状態で操作してください。

《かけかた》

メインスイッチのキーを差し込み、右に回して、キーを抜きます。

《外しかた》

メインスイッチのキーを差し込み、左に回して、キーを抜きます。



装備の使いかた

《開けかた》

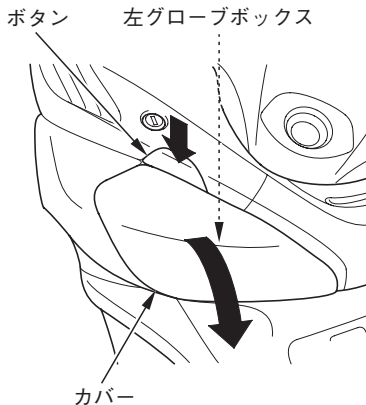
ボタンを押し、カバーを開けます。

《閉じかた》

カバーがロックするまで完全に閉じてください。
カバーが確実にロックされているか確認してください。

📖 知識

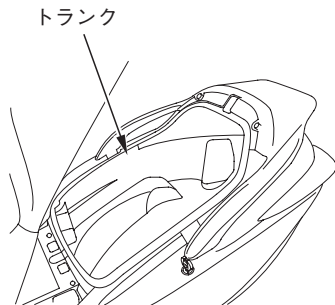
- 貴重品やこわれやすいものは入れないでください。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。
- カバーを開けた状態でキーロックをかけると、カバーを閉じた際にロックされることがあります。
メインスイッチのキーをポケット内に置き忘れると、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。



トランク

シートの下にトランクがあります。
シートの開閉は、50ページを参照してください。

トランク内への荷物の積載は、10.0 kgまでです。



知識

- メインスイッチのキーをシートの下に置き忘れた状態でシートを押し下げると、自動的にロックされ、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。
- シートを閉めた後、完全にシートロックがかかったか確かめてください。
ロックをかけないで走行すると、走行に支障をきたすことがあります。
- ラゲージランプスイッチが“ I ” (ON) の場合、ロックをかけないとラゲージランプが点灯したままになり、バッテリーあがりの原因になります。
- トランク内はエンジンの熱で温度が高くなります。熱の影響を受け易い用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。
- 貴重品やこわれ易いものは入れないでください。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。

装備の使いかた

ラゲージランプ

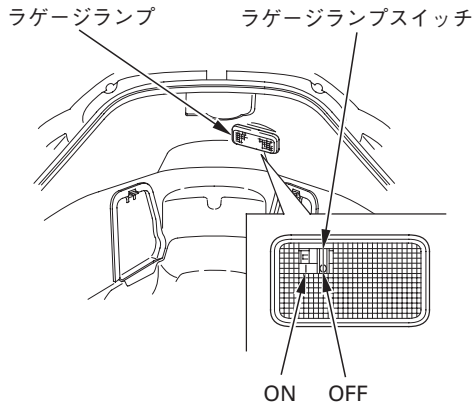
トランク内には、ラゲージランプがあります。ラゲージランプは、メインスイッチの位置に関係なく、ラゲージランプスイッチによって操作できます。

“ | ” (ON) ……シートが開いているときに点灯します。

“ ○ ” (OFF) ……消灯したままになります。

知識

- シートを閉めた後、完全にシートロックがかかったか確かめてください。ラゲージランプスイッチが“ | ” (ON) の場合、ロックをかけないとラゲージランプが点灯したままになり、バッテリーあがりの原因になります。



書類・携帯工具入れ

シート下に書類・携帯工具入れがあります。

書類

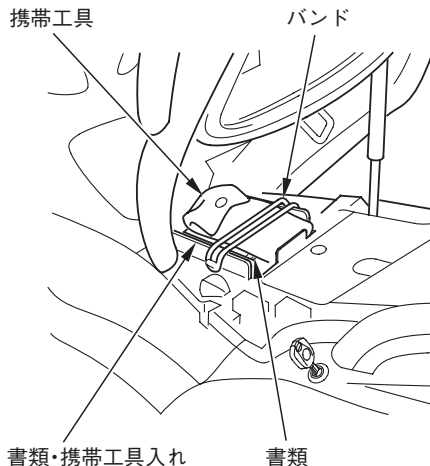
取扱説明書やメンテナンスノートなどはビニール袋に入れ、書類・携帯工具入れに格納し、バンドでしっかりと固定してください。

携帯工具

携帯工具は書類・携帯工具入れに格納し、バンドでしっかりと固定してください。

知識

- メインスイッチのキーをシートの下に置き忘れた状態でシートを押し下げると、自動的にロックされ、キーを取出すことができなくなりますのでご注意ください。
- 洗車時、シートの方から強く水をかけないでください。内部に水が入り書類等がぬれることがあります。



装備の使いかた

リヤクッションの調整

リヤクッションの強さは、5段に調整できます。体重や路面の状態に応じて調整してください。

調整は、アジャスタをピンスパナで回して行います。

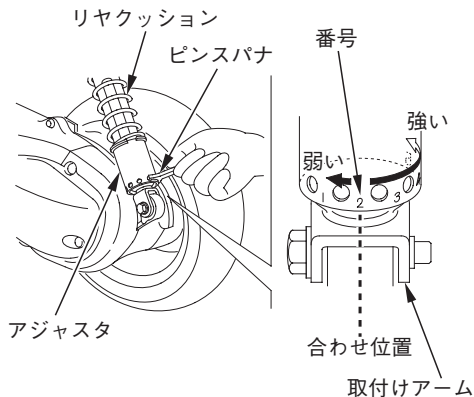
アジャスタの回転順序は、1→2→3→4→5または5→4→3→2→1で行います。

アジャスタを直接1から5または5から1に無理に回すとリヤクッションが破損します。

アジャスタの位置は、番号をリヤクッションの取付けアームの中心に合わせます。

“2”が標準の位置で、1は弱く、3～5と強くなります。

左右の強さは、必ず同じにしてください。



1	標準 2	3	4	5
← 弱い			強い →	

知識

- 調整するときは、一度標準位置に戻してから行ってください。

燃料の補給

《使用燃料》

無鉛レギュラーガソリン

アドバイス

- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。
補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。
- 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油や粗悪ガソリン（長期間保管したガソリン）などを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



警告

ガソリンは、燃えやすくヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

ガソリンを取扱う場合は、

- エンジンを止めてください。また、裸火、火花、熱源などの火元を遠ざけてください。
- 燃料補給は、必ず屋外で行ってください。
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取ってください。

身体に帯電した静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し、ヤケドを負う可能性があります。

ガソリンを補給するときは、

- 燃料タンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。
- 給油作業は静電気を除去した人のみで行ってください。

燃料の補給

《補給のしかた》

1. 燃料タンクリッドの上部を押し、燃料タンクリッドを開けます。



燃料タンクリッド

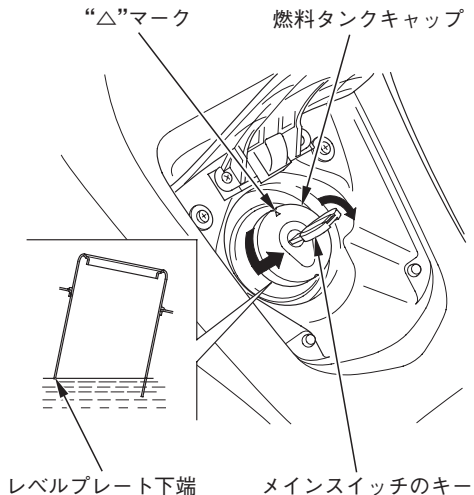
2. メインスイッチのキーを燃料タンクキャップに差し込み、右に回します。
3. 燃料タンクキャップを左に回して開けます。
4. ガソリンを注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。

ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると、燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。

5. 燃料タンクキャップを右に回し、タンクキャップの“△”マークが車両前方を向くまで確実に回します。
6. メインスイッチのキーを左に回し、キーを抜きます。

燃料タンクキャップがロックされないと、メインスイッチのキーは抜けません。

7. 燃料タンクリッドを閉じます。



正しい運転操作

エンジンのかけかた

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

エンジン始動は、66 - 68 ページの「始動手順」に従って行ってください。

- エンジンをかける前に、オイル、ガソリンなどの点検をしましたか。
必ず点検を行ってください。
(日常点検は、83 ページ参照)
- エンジンをかけるときは、必ずメインスタンドを立ててください。
- 急な飛び出しを防ぐために始動時は、必ず左ブレーキレバーを強く握った状態で行ってください。
- 左ブレーキレバーを強く握った状態でないとスタータモータは回転しません。

アドバイス

- スタータスイッチを押して5秒以内でエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを“OFF”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
これはバッテリー電圧を回復させるためです。
- 無用の空ぶかしや長時間の暖機運転はしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジン等に悪影響を与えます。
- 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを“OFF”にしてください。再度、走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

知識

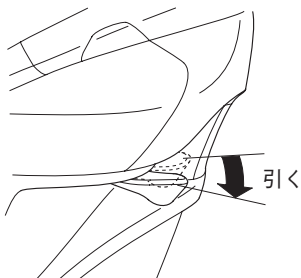
- この車には、サイドスタンドを出したままではエンジンがかからないイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。エンジンをかける前に、必ずサイドスタンドを格納してください。
また、エンジンがかかっているときにサイドスタンドを使用すると、エンジンが止まります。サイドスタンドは、エンジンを止めてから使用してください。
- エンジンをかけるときには、スロットルを全開にしないでください。
スロットルを全開にしてエンジンを始動しようとする、PGM-FIユニットが燃料の供給を停止します。
- この車は、転倒したとき、自動的にエンジンを停止するシステムが装備されています。エンジンを再始動するときは、システムの作動を解除するためにメインスイッチを一度“OFF”にしてください。

正しい運転操作

《始動手順》

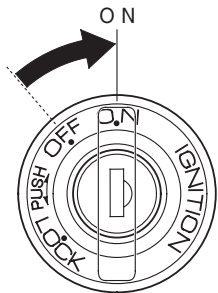
この車にはオートチョークが装備されていますのでエンジンが冷えているとき、暖まっているときにかかわらず以下の始動手順に従ってください。

- 1 パーキングブレーキグリップを手前に引き、後輪をロックします。(53 ページ参照)

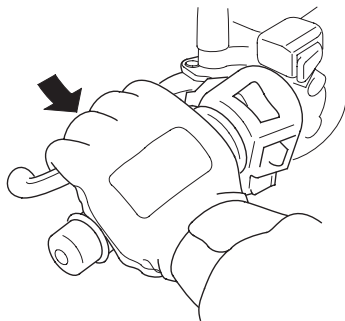


- 2 エンジンストップスイッチが“○”(RUN)になっていることを確認します。

③ メインスイッチを“ON”にします。



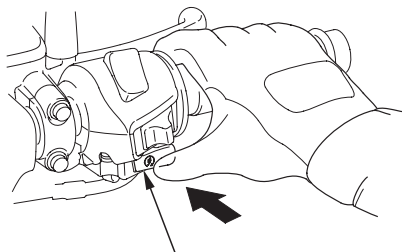
④ 左ブレーキレバーを強く握ります。



正しい運転操作

- ⑤ スロットルグリップを回さずに、スタータスイッチを押します。

エンジンがかかったらすぐに、スタータスイッチから手をはなしてください。



スタータスイッチ

知識

- エンジンが回転しているときスタータスイッチを押さないでください。エンジンに悪影響を与えます。

- 長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしたときにガソリンを補給してもエンジンがかかりにくいことがあります。このようなときは、スロットルグリップを回さずにスタータスイッチを普段より多目に使用してください。

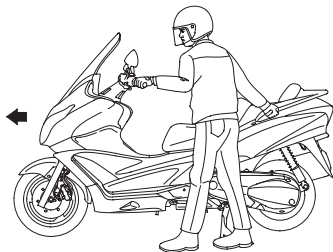
スタートするとき

① メインスタンドを外します。

- パーキングブレーキをかけたままで、車を前に押し、メインスタンドを外してください。

エンジンをかけてから走り出すまではエンジンの回転をむやみにあげないでください。

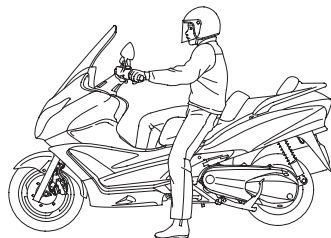
乗車する前に、サイドスタンド、メインスタンドは完全に納まっているか確認してください。



② 乗車します。

- 車の左側から乗車し、シートにしっかりと腰をおろします。このとき足を地面につけて、倒れないようにしてください。

乗車してスタートするまではパーキングブレーキはかけたままにしておいてください。

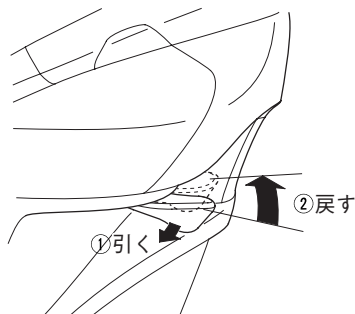


正しい運転操作

- ③ パーキングブレーキを外します。

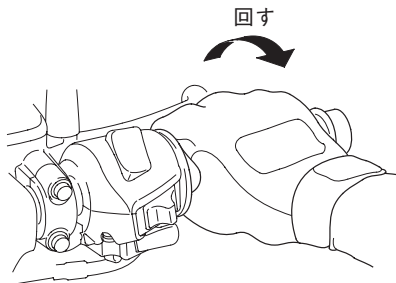
パーキングブレーキを外すときは、左ブレーキレバーをにぎってください。

左ブレーキレバーを離すときは、スロットルグリップをまわさないでください。飛び出しなどの危険性があります。



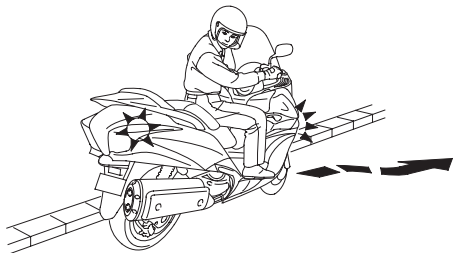
- ④ スロットルグリップをゆっくり回せば車は走り出します。

スロットルグリップをいきなり手前に回すと急加速して危険です。



正しい走りかた

スタート前に方向指示器スイッチで合図を出し、
後方の安全を確認してからスタートしましょう。



速度調整は、スロットルグリップで行います。

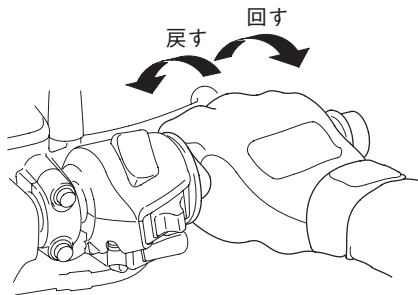
回す……速度が速くなる。

ゆっくり回しましょう。

登り坂ではスロットルグリップを徐々に
回して力をつけましょう。

戻す……速度が遅くなる。

すばやく戻しましょう。



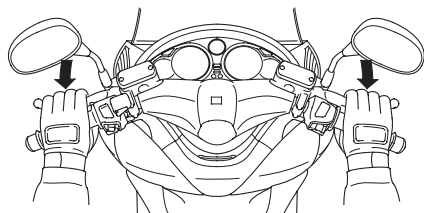
正しい運転操作

ブレーキの使いかた

ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

- スロットルグリップを戻してから、ブレーキレバーを握りましょう。
- “はじめやんわり、あときつく”がブレーキの上手なかけかたです。

走行中は、パーキングブレーキグリップを操作しないでください。ブレーキがロックされ危険です。

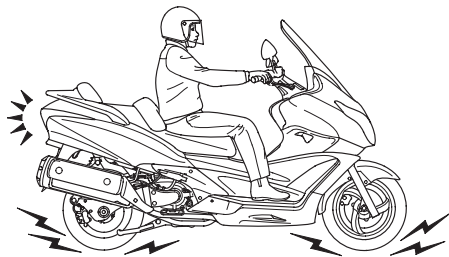


左ブレーキレバー

右ブレーキレバー

不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。

- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。



雨の日は、とくに慎重に走りましょう。

- 雨の日や路面がぬれているところでは、晴天時よりブレーキ停止距離が長くなります。速度を落として走り、早めにブレーキをかけるなど余裕をもって操作しましょう。
- 下り坂では、スロットルグリップを戻して速度に応じてブレーキをかけながらゆっくり走りましょう。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。
- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなることがあります。水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 雪道や凍った道はすべりやすいので十分に気をつけて、ゆっくり走りましょう。

正しい運転操作

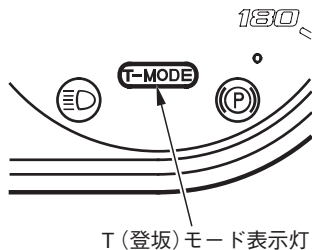
走行モード

走行モードには、通常モードとT（登坂）モードがあります。

走行モードがT（登坂）モードのときは、T（登坂）モード表示灯が点灯し、通常モードのときは、T（登坂）モード表示灯が消灯します。

通常の走行では、走行モードを通常モードにして走行します。

上り坂の走行では、走行モードをT（登坂）モードにすると、坂の勾配に応じてエンジンの駆動力が向上し、より力強い走行ができます。

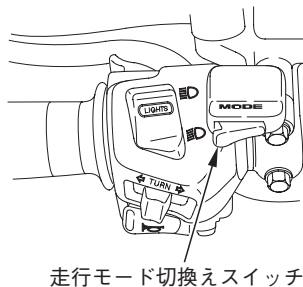


モードの切換え

走行モードの切換えは、エンジン回転中に、走行モード切換えスイッチを押すと、通常モードとT（登坂）モードが交互に切換わります。

エンジン回転中以外では、走行モードの切換えはできません。

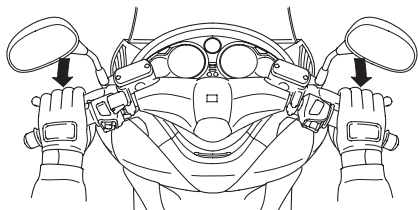
エンジンが停止すると、走行モードは通常モードに切換わります。



止まりかた

① 止まる地点が近づいたら、

- 早めに方向指示器スイッチで合図を出し、後方や側方の車に注意し、徐々に左に寄りましょう。
- スロットルグリップを戻して、早めに左・右のブレーキレバーを引きブレーキをかけましょう。制動灯(ストップランプ)が点灯し、後車への合図になります。



左ブレーキレバー

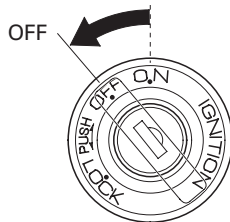
右ブレーキレバー

② 完全に車が止まったら、

- 方向指示器スイッチを戻し、メインスイッチのキーを“OFF”の位置にしてエンジンを止めます。

走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

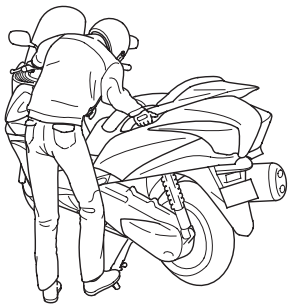
メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。



正しい運転操作

③ 左側におりて、平らな場所でスタンドを立てましょう。

- 交通のじゃまにならない平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てましょう。不安定な場所では車が倒れることがあります。
- メインスタンドを使用する場合は、左手でハンドルをまっすぐにして、右手でグラブレールをしっかりと持ち右足でスタンドを左右同時に地面につけて、立てましょう。



④ 盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチのキーを抜いておきましょう。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。

慣らし運転を行きましょう。

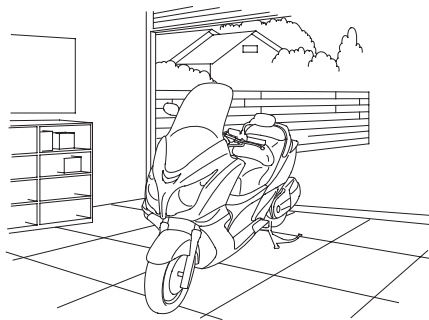
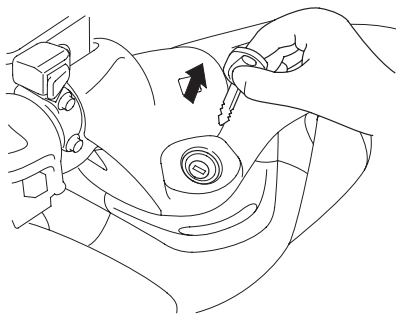
適切な慣らし運転を行うと、その後のお車の性能を良い状態に保つことができます。

この車は乗り始めてから500 kmを走行するまでは急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

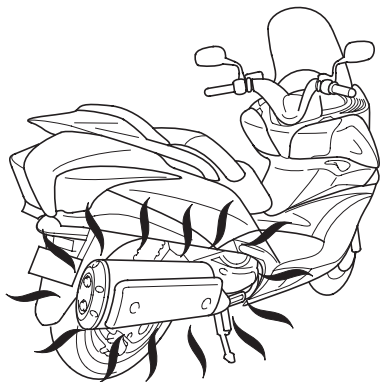
—メモ—

メンテナンスを安全に行うために

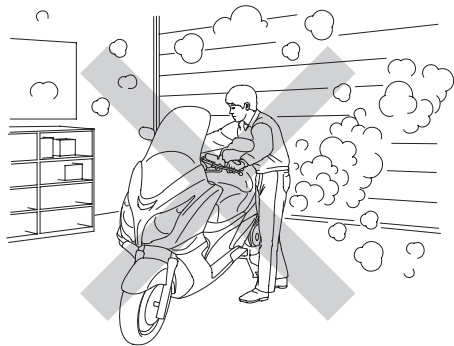
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。



- エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

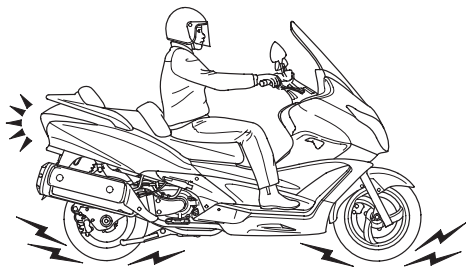


- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



メンテナンスを安全に行うために

- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。
- メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。



日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年毎(12か月毎)、2年毎(24か月毎)の定期点検整備が義務づけられています。

安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。



点検整備の方法を正しく行わないことや、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

各点検、メンテナンス等については、以下のページをご覧ください。

1か月目点検について	82
交換部品について	82
日常点検	83
メンテナンス部品配置図	84
定期点検	86
簡単なメンテナンス	87
ブレーキ	88
パーキングブレーキ	90
タイヤ	91
エンジンオイル	95
冷却水	100
バッテリー	103
ヒューズ	106
ファイナルギヤオイル	112
エアクリーナ	114
ベルトケースエアクリーナ	117
ケーブル・ワイヤ類	118
ブリーザドレン	119

日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス

1 か月目点検について

新車から1 か月目(または、1,000 km時)は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取扱いいたします。

お買いあげのHonda販売店で行ってください。

他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。

また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。

詳細については、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

小型自動車[250 cm³ (cc)を超えるもの]は、1 回目を登録日から3 年後に、2 回目以降は、2 年毎に国で定める継続検査を受けなければ使用できません。期間満了前に必ずお受けください。

交換部品について

点検整備の結果、部品の交換が必要となった場合は、あなたのお車に最適な“Honda純正部品”をご使用ください。

純正部品は、厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。

お求めは、Honda販売店にご相談ください。

純正部品には、次のマークがついています。

純正部品マーク

HONDA

GENUINE PARTS

日常点検

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令にしたがって、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。

この車に適用される点検項目は、右記「日常点検項目」です。

下線のついている項目については、「簡単なメンテナンス」に説明があります。87 ページ以後を参照してください。

また、点検項目の部位を次ページの「メンテナンス部品配置図」で示します。参照してください。

点検方法・要領は、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

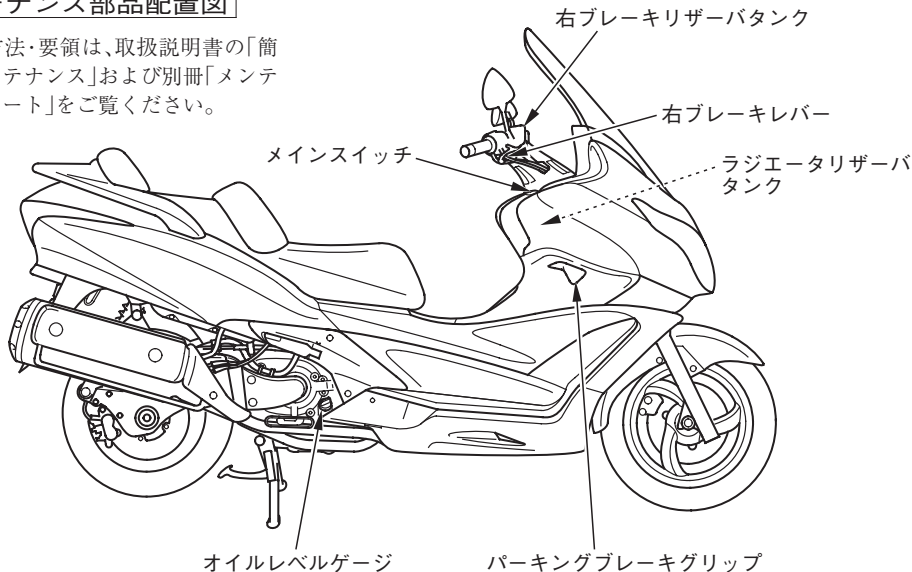
日常点検項目

- ブレーキ
 - レバーの遊び(油圧式)
 - ブレーキの効き具合
 - ブレーキ液の量
- タイヤ
 - 空気圧
 - 亀裂、損傷
 - 異状な摩耗
 - 溝の深さ
- エンジン
 - 冷却水の量
 - エンジンオイルの量
 - かかり具合、異音
 - 低速、加速の状態
- 灯火装置及び方向指示器
- 運行において異状が認められた箇所

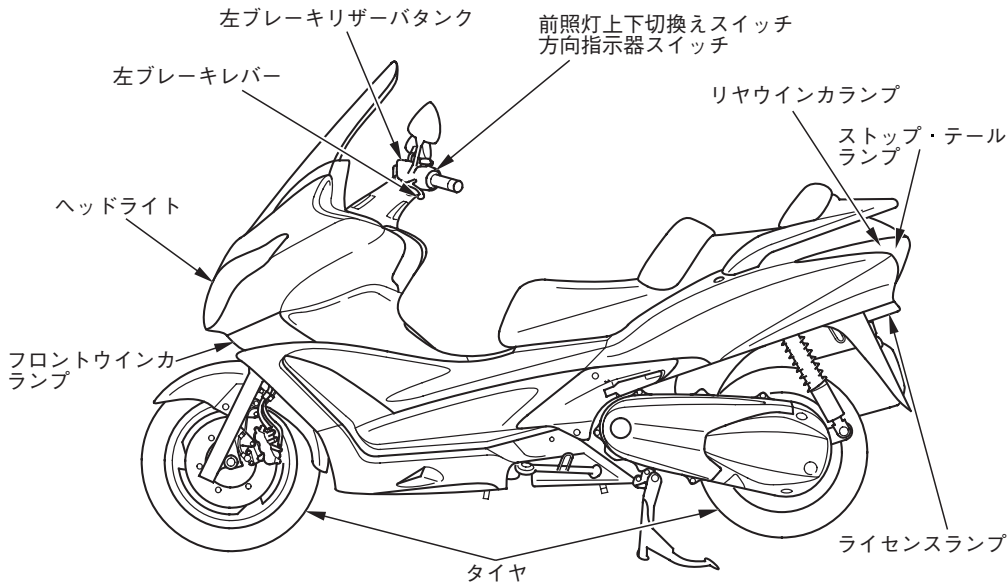
日常点検

メンテナンス部品配置図

点検の方法・要領は、取扱説明書の「簡単なメンテナンス」および別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。



《イラストは、SILVER WING GT〈600〉ABS》



《イラストは、SILVER WING GT〈600〉ABS》

定期点検

定期点検

定期点検は、道路運送車両法で定められた1年毎(12か月毎)、2年毎(24か月毎)の点検と、使い始めてから1か月目(または、1,000 km時)に行う点検があります。

また、これらの点検項目のほかにHondaが指定する点検整備項目もあります。

安全快適にお車をご使用いただくために、点検整備を必ず実施してください。

点検整備の実施は、お客様の責任です。これは、ご自身で行う場合も、他に依頼する場合も同様です。

- ご自身で実施できない場合は、Honda販売店にご相談ください。
- ご自身で実施する場合は、安全のためご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda販売店にご相談ください。

点検整備のデータは、136ページのサービスデータを参照してください。

点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

簡単なメンテナンス

簡単なメンテナンス

ここでは、通常行われることが多い簡単なメンテナンス(点検整備)について説明しています。

ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で、適切な工具を使用し、メンテナンスを行ってください。
安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、Honda販売店にご相談ください。

簡単なメンテナンス

ブレーキ

《ブレーキ液の量の点検》

平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にします。

液面が下限(LOWER)以上にあることを確認してください。

液面が下限以下の場合はブレーキパッドの摩耗が考えられます。パッドの摩耗の点検を行ってください。(次ページ参照)

ブレーキパッドが摩耗していない場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。異状箇所の修理やブレーキ液の補充はHonda販売店にご相談ください。

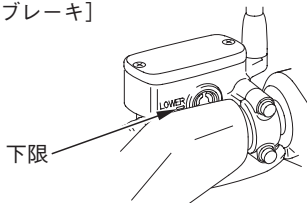
指定ブレーキ液

Honda純正ブレーキフルード DOT 4

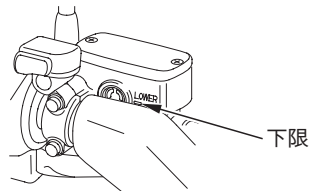
🏍️ アドバイス

- 銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
銘柄の異なるブレーキ液を使用すると、ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

[右ブレーキ]



[左ブレーキ]



《ブレーキパッドの摩耗の点検》

[前輪]

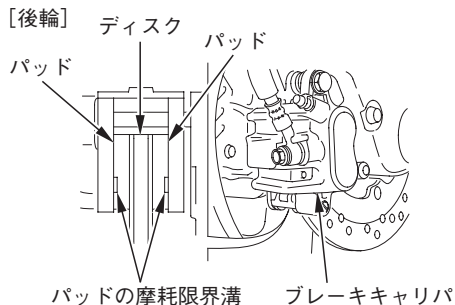
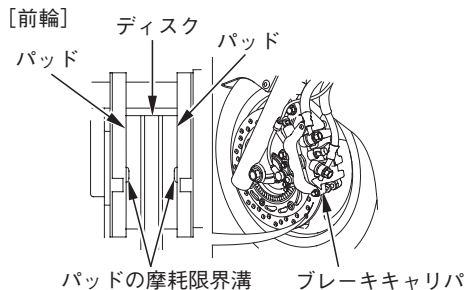
ブレーキキャリパの下側からのぞいて、パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

[後輪]

ブレーキキャリパの下側からのぞいて、パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

摩耗限界に達したら、ブレーキパッドを左右同時に交換してください。

ブレーキパッドの交換は、Honda販売店にご相談ください。



簡単なメンテナンス

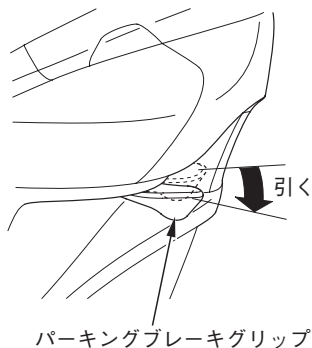
パーキングブレーキ

《パーキングブレーキの点検》

(Honda指定1年点検整備項目)

パーキングブレーキグリップをいっぱい引いた状態で車を押し、パーキングブレーキの効きが十分であるか確認します。

パーキングブレーキの効きが不十分なときは、Honda販売店にご相談ください。



タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。

常に適正な空気圧を保ってください。

また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは、使用せず交換してください。



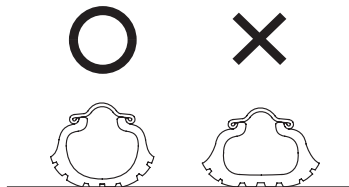
過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

《空気圧の点検》

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。

タイヤ接地部のたわみ状態が異状な場合は、タイヤが冷えている状態でタイヤゲージを使用し、適正な空気圧に調整してください。



簡単なメンテナンス

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいものもあるため、少なくとも一カ月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

走行後のタイヤが温まっている状態ではタイヤの空気圧は高くなる場合がありますので、必ず冷えた状態で調整してください。

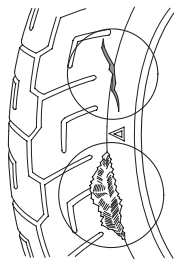
タイヤの空気圧

1人乗車時	前輪	200 kPa (2.00 kgf/cm ²)
	後輪	225 kPa (2.25 kgf/cm ²)
2人乗車時	前輪	200 kPa (2.00 kgf/cm ²)
	後輪	250 kPa (2.50 kgf/cm ²)

《亀裂と損傷の点検》

タイヤの全周に亀裂や損傷及び釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

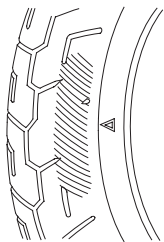
道路の縁石等にタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越した時は、必ず点検してください。



《異状な摩耗の点検》

タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。

タイヤの状態が異状な場合は、Honda販売店にご相談ください。



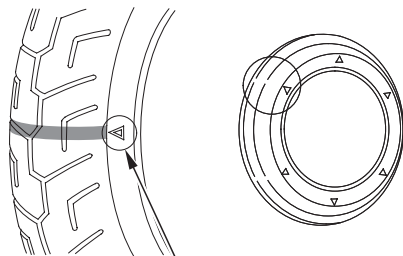
《溝の深さの点検》

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ (スリップサイン) により確認します。

ウェアインジケータがあらわれたときは、ただちに交換してください。

また、安全な走行のためトレッド中央部の溝の深さが次の数値になったときは交換してください。

前輪 1.5 mm 後輪 2.0 mm



ウェアインジケータ
表示マーク

簡単なメンテナンス

《交換タイヤの選択について》

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。

指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、Honda販売店にご相談ください。



指定以外のタイヤを取付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取付けてください。

指定タイヤ

前 輪	サイズ	120/80-14M/C 58S
	タイプ	BRIDGESTONE HOOP B03 チューブレス
後 輪	サイズ	150/70-13M/C 64S
	タイプ	BRIDGESTONE HOOP B02 F チューブレス

エンジンオイル

エンジンオイルは走行距離や時間の経過とともに劣化したり減っていきます。

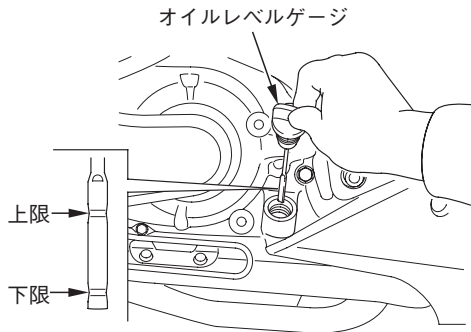
そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検・補給が必要です。汚れたオイルや古くなったオイルは、エンジンに悪影響を与えますので、早めに交換してください。

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

《オイル量の点検》

1. 平坦地でメインスタンドを立て、エンジンを3～5分間アイドリングさせます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージを外します。
3. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭きます。

4. オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。
5. オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
オイル量が下限に近かったら、上限まで補給します。
エンジンオイルの補給は、次ページ参照。
6. オイルレベルゲージを確実に取付けます。



簡単なメンテナンス

《オイルの補給》

推奨オイル

Honda純正オイル(4サイクル二輪車用)

	JASO T903規格	SAE規格	API分類
ウルトラE1	MB	10W-30	SL級

相当品をご使用の場合

オイル容器の表示を確認し、下記のすべての規格を満たしているオイルをお選びください。

- JASO T 903 規格(二輪車用オイル規格):MB
- SAE規格:外気温に応じ98 ページの表から選択
- API分類:SG、SH、SJ、SL 級相当

相当品がすべての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

アドバイス

- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルや高品質オイルでもこの車に適合しないオイルは、使用しないでください。
オイルが変質したり、適合しないため、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

🏍️ アドバイス

- API規格マークの入っている相当品を使用する場合、エナジーコンサービングを取得したオイルには摩擦係数の低いものがあり推奨しません。



推奨しません



推奨します

🎓 知識

- JASO T 903規格とは4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。なお、規格に適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



上段: オイル販売会社の整理番号

下段: 性能分類の表示
MB性能であることを示しています

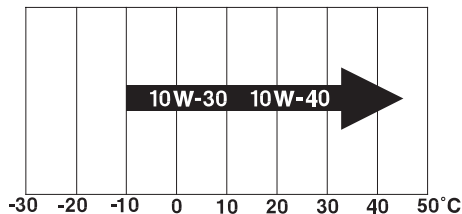
JASO T 903 適合品
本MB性能の品質保証者
本田技研工業株式会社

簡単なメンテナンス

外気温と粘度との関係

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを
下表にもとづきお使いください。

(S A E 規格)



(外気温)

交換時期

初回:1,000 kmまたは1か月

以後:10,000 kmまたは1年ごと

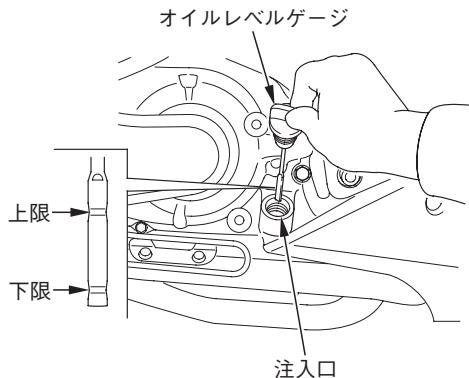
エンジンオイルの交換は、Honda販売店にご相談
ください。

補給のしかた

1. 平坦地でメインスタンドを立て、エンジンを3～5分間アイドリングさせます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージを外します。
3. 布等でオイルレベルゲージに付いたオイルを拭きます。
4. オイルレベルゲージでオイル量を確認しながら、注入口よりオイルをオイルレベルゲージの上限まで補給します。

補給するときは、オイル注入口からごみなどが入らないようにしてください。また、オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。

5. オイルレベルゲージを確実に取付けます。



アドバイス

- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。

簡単なメンテナンス

冷却水

《冷却水量の点検》

冷却水量は右グローブボックス横の点検窓から点検できます。

1. 平坦地でメインスタンドを立てます。
2. 右グローブボックスのカバーを開けます。
(54ページ参照)
3. 冷却水がリザーバタンクの上限と下限の間にあることを確認します。

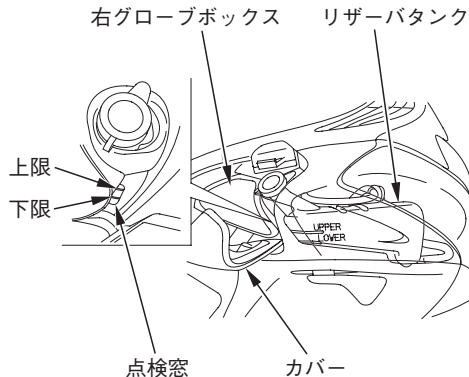
水量が下限に近かったら、上限まで補給します。

冷却水の補給は、次ページを参照してください。

冷却水の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、キャップ、ホースなどからの水漏れが考えられます。

また、リザーバタンクに冷却水がない場合も異常です。

Honda販売店にご相談ください。



《冷却水の補給》

補給はリザーバタンクのキャップから行い、通常はラジエータキャップを外さないでください。



エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエータキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエータが冷えていることを確認してください。

アドバイス

- 指定以外のラジエータ液や不適當な水を使うとサビなどの原因となります。

簡単なメンテナンス

冷却水指定液

Honda純正ウルトララジエータ液

指定液の濃度を上水道(軟水)で下記濃度に薄めてお使いください。

指定濃度:30%(寒冷地は50%)

濃度による不凍温度は、

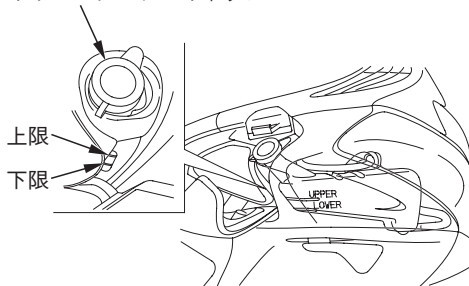
30%の場合 -16°C まで

50%の場合 -37°C まで

補給のしかた

1. 平坦地でメインスタンドを立てます。
2. 右グローブボックスのカバーを開けます。
(54ページ参照)
3. リザーバタンクのキャップを外します。
4. リザーバタンクの上限まで冷却水を補給します。
5. キャップを取付け、右グローブボックスのカバーを閉じます。

リザーバタンクのキャップ



バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しています。バッテリー液の点検、補給は必要ありません。

バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

バッテリーの取扱い

- バッテリー取扱い時には、ショートによる火花やたばこ等の火気に十分注意してください。
- バッテリー液は、希硫酸ですので目や皮膚に付着しないよう十分注意してください。

アドバイス

- 密閉式バッテリーですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。バッテリーの充電時も液口キャップを取外す必要はありません。



警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
- バッテリーを、子供の手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

- 電解液が目につ着したとき
ー コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚につ着したとき
ー 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
ー 水、または牛乳を飲んでください。
応急処置後、直ちに医師の診察を受けてください。

簡単なメンテナンス

《バッテリーターミナル部の清掃》

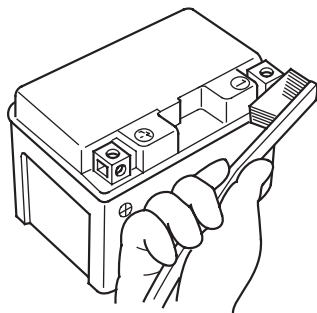
清掃のしかた

バッテリーを取外します。(次ページ参照)

- ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシまたはサンドペーパーで磨きます。

清掃後、バッテリーを取付けます。

バッテリーを交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーをご使用ください。



《バッテリーの取付け、取外し》

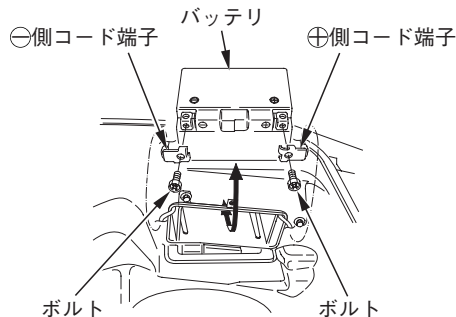
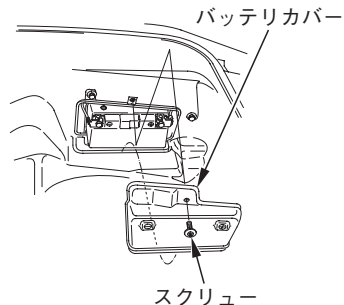
取外し

1. シートを開けます。(50 ページ参照)
2. スクリュー、バッテリーカバーを取外します。
3. ⊖側コード端子のボルトを外し、⊖側コードを外します。
4. ⊕側コード端子のボルトを外して、⊕側コードを外します。
5. バッテリーを取出します。

取付け

- 取外しの逆手順でバッテリーを取付けます。

バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取付けてください。
また、ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。



簡単なメンテナンス

ヒューズ

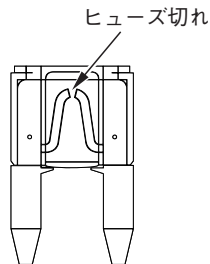
《ヒューズの点検、交換》

メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないことを確認します。

ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。



🔧 アドバイス

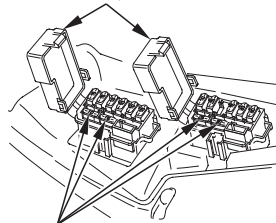
- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「Honda アクセサリー」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。

ヒューズボックス内のヒューズ

1. シートを開けます。(50 ページ参照)
2. ヒューズボックスカバーを開けます。
故障状況から、交換すべきヒューズをヒューズボックスの表示に従い確認します。
スペアヒューズは、ヒューズボックス内にあります。
3. ヒューズボックスカバー、シートを閉じます。

《SILVER WING GT 〈600〉 ABS》

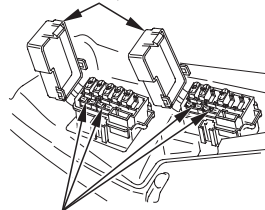
ヒューズボックスカバー



スペアヒューズ

《SILVER WING GT 〈600〉》

ヒューズボックスカバー

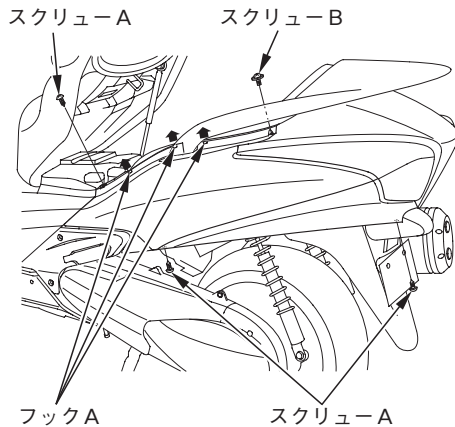


スペアヒューズ

簡単なメンテナンス

メインヒューズA、フューエルポンプヒューズ

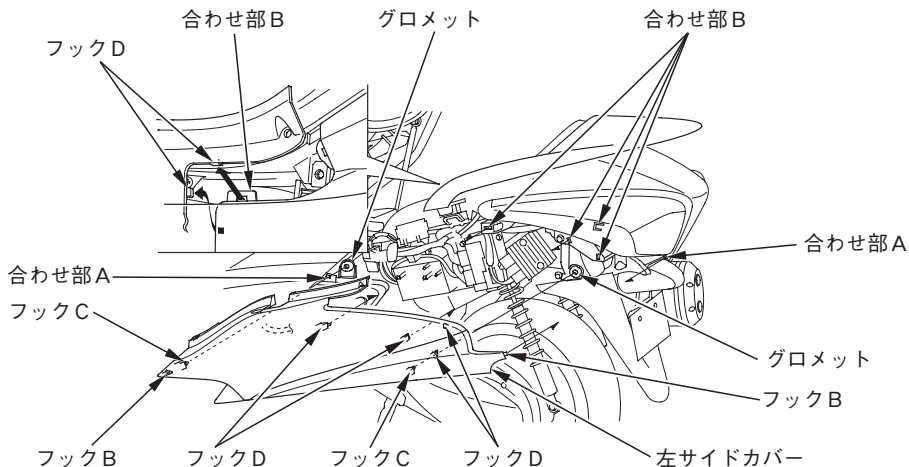
1. シートを開けます。(50ページ参照)
2. スクリューA、スクリューBを取外し、フックAを外します。



3. 合わせ部AからフックBを外します。
4. グロメットからフックCを外します。
5. 合わせ部BからフックDを外して、左サイドカバーを取外します。

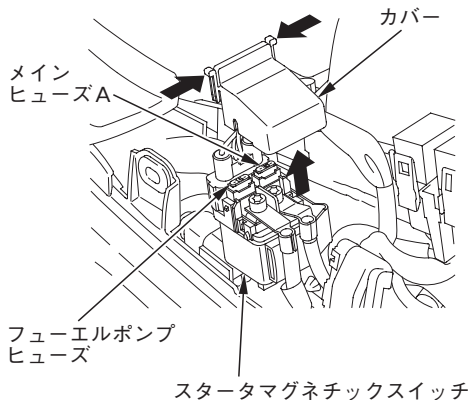
アドバイス

- フックを外す際、無理な力を加えないでください。フックおよび合わせ部が破損するおそれがあります。



簡単なメンテナンス

6. スタータマグネチックスイッチのカバーを取外します。
7. メインヒューズAおよびフューエルポンプヒューズを引き抜き、確認します。
スペアヒューズは、ヒューズボックス内にあります。(107ページ参照)
8. カバー、左サイドカバーを取付け、シートを閉じます。

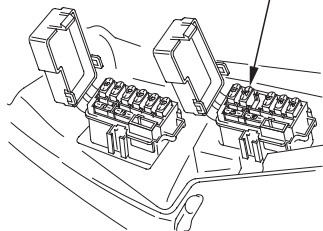


メインヒューズB

メインヒューズBはヒューズボックス内にあります。(107ページ参照)

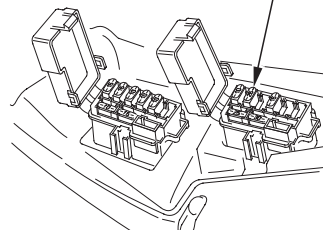
《SILVER WING GT 〈600〉 ABS》

メインヒューズB



《SILVER WING GT 〈600〉》

メインヒューズB



簡単なメンテナンス

ファイナルギヤオイル

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

アドバイス

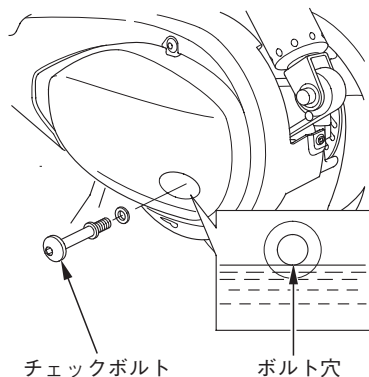
- オイルは規定量より多くても少なくても、悪影響を与えます。

《オイル量の点検》

1. 平坦地でメインスタンドを立てます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルチェックボルトを外します。
3. ボルト穴からオイルが出てくることを確認します。

油面が低く、ボルト穴からオイルが出てこない場合は、オイルを補給してください。
オイルの補給は、Honda販売店にご相談ください。

4. オイルチェックボルトを確実に取付けます。



推奨オイル

Honda純正オイル(4サイクル二輪車用)

	JASO T903規格	SAE規格	API分類
ウルトラG1	MA	10W-30	SL級

相当品をご使用の場合、オイル容器の表示を確認し、次の範囲内でお選びください。

JASO T 903規格(二輪車用オイル規格):MA

SAE規格:10W-30

API分類:SG、SH、SJ、SL級相当

アドバイス

- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルや高品質オイルでもこの車に適合しないオイルは、使用しないでください。オイルが変質したり、適合しないため、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

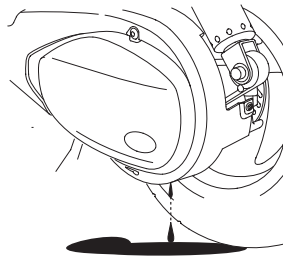
交換時期

初回5年目、以後4年ごと

ファイナルギヤオイルの交換は、Honda販売店にご相談ください。

《オイル漏れの点検》

ファイナルリダクションケースなどから、オイルが漏れていないことを確認します。



簡単なメンテナンス

エアクリーナ

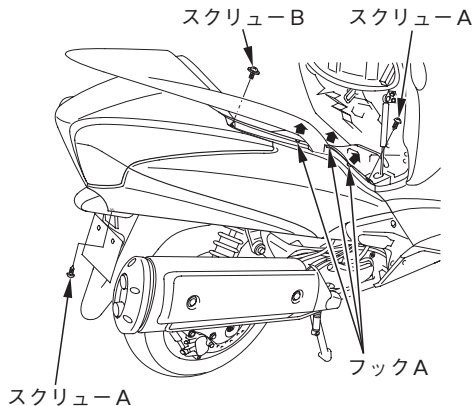
この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカス式のエアクリーナエレメントが装備されており、点検・清掃は不要です。

40,000 km ごとに交換してください。


《エアクリーナエレメントの交換》

取外し

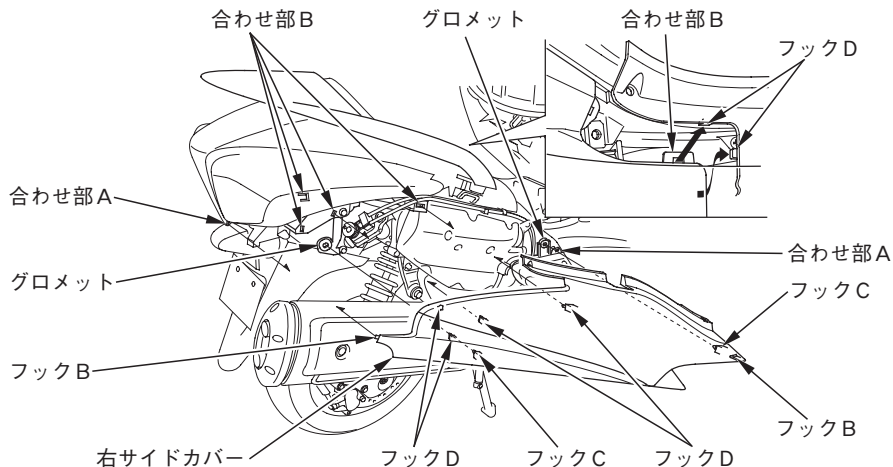
1. シートを開けます。(50ページ参照)
2. スクリューA、スクリューBを取外し、フックAを外します。



3. 合わせ部AからフックBを外します。
4. グロメットからフックCを外します。
5. 合わせ部BからフックDを外して、右サイドカバーを取外します。

 **アドバイス**

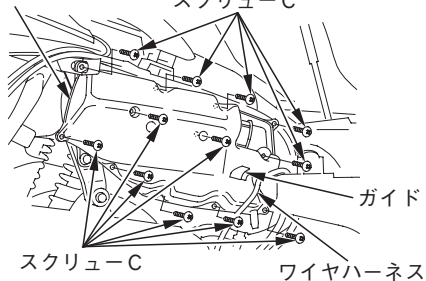
- フックを外す際、無理な力を加えないでください。フックおよび合わせ部が破損するおそれがあります。



簡単なメンテナンス

- ガイドからワイヤハーネスを外します。
- スクリーuC、エアクリーナカバーを取外します。
- スクリーuD、エアクリーナエレメントを取外します。
取外し後ケース内にゴミやほこり等がないことを確認し、ある場合は取除きます。
- 新しいエアクリーナエレメントと交換します。

エアクリーナカバー スクリーuC



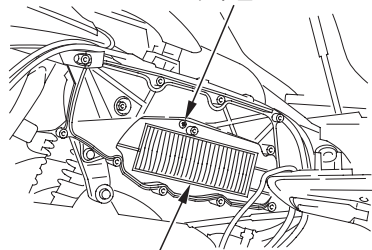
取付け

- 取付けは、取外しの逆手順で行います。

🔧 アドバイス

- エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってシリンダの摩耗や出力低下を起し、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。
- また、洗車時エアクリーナに水を入れないようにご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。

スクリーuD



ベルトケースエアクリーナ

《ベルトケースエアクリーナの点検、清掃》

この車にはベルトケースエアクリーナが装備されています。12か月毎に点検し、汚れがひどい場合は清掃してください。ベルトケースエアクリーナの点検・清掃は、**Honda**販売店にご相談ください。

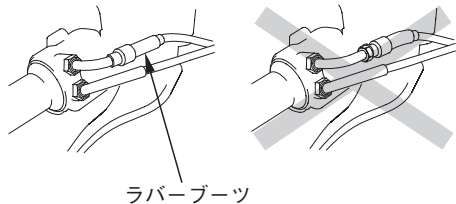
簡単なメンテナンス

ケーブル・ワイヤ類

《ラバーブーツの点検》

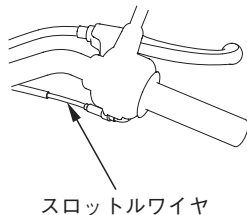
ケーブル類にはインナーケーブル保護のため、ラバーブーツが取付けられています。常に正しく取付けられているか点検してください。

洗車時には、ラバーブーツに直接水をかけたり、ブラシを当てたりしないでください。汚れのひどい場合は、固くしぼった布等で拭き取るようにしてください。



《ケーブル・ワイヤ類の点検》

スロットルグリップを作動させ、スムーズに動くか、作動が異状に重くないか、スロットルグリップから手を放したときにグリップがスムーズに戻るかを点検してください。また、ケーブル・ワイヤの外表部に損傷がないかを点検してください。異状を感じた場合はHonda販売店にご相談ください。



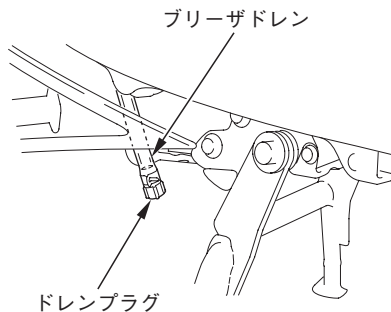
ブリーザドレン

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザドレンの清掃が必要です。

《ブリーザドレンの清掃》

(Honda指定1年点検整備項目)

1. ブリーザドレンの下に受け皿等を用意します。
2. ドレンプラグを外し、ブリーザドレン内の堆積物を取除きます。
3. ドレンプラグを確実に取付けます。



車のお手入れ

お車を定期的に清掃することは、品質や性能を維持するために大切な作業です。

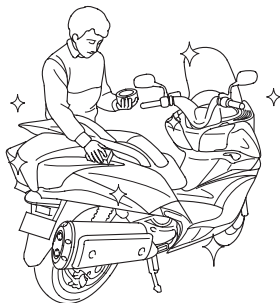
普段見逃しがちな異常の発見にもつながります。

また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。

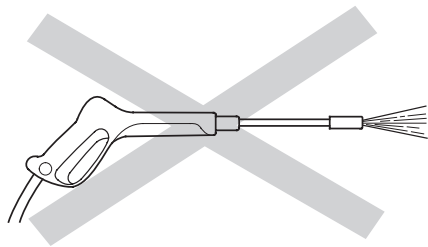
海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行した後は必ず洗車してください。

《洗車のしかた》

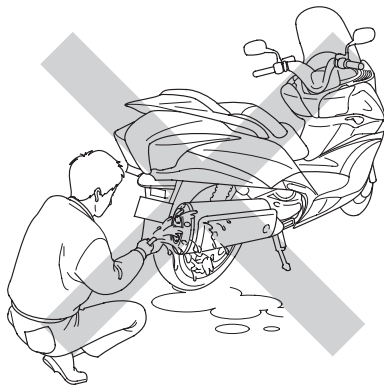
1. 水を流しながら柔らかい布やスポンジで汚れを落としてください。
汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流してください。
2. 柔らかい布で拭きあげてください。車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取付け部へ注油し、その後、車体の腐食を防ぐため、ワックスがけを行ってください。



- 洗車は、エンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機などのような車体に高い水圧がかかる洗車は避けてください。
特に可動部や電装部品等にかかると、作動不良や故障の原因となることがあります。



- 洗車時、マフラに水を入れしないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。



車のお手入れ

- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなることがあります。
洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 洗車時、シートの下から強く水をかけないでください。内部に水が入り書類等がぬれることがあります。
- 洗車直後などにヘッドライト内部がくもることがあります。この場合、ヘッドライトを点灯することでくもりは徐々に消えていきます。ヘッドライトの点灯は、エンジンをかけながら行ってください。
- ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディが目立たないところでくもりやキズ、色むら等が生じないか確認してからご使用ください。また、ワックス等で強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。
- ブレーキディスクやパッドにワックス、オイル等の油脂類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。

ウインドスクリーンの取扱い

ウインドスクリーンの取扱いには次の注意事項をお守りください。

- ウインドスクリーンを清掃するときは、傷がつきやすいので多量の水を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを落してください。
汚れのひどい時は、スポンジに薄めた中性洗剤を含ませ汚れを落とし、さらに十分な水で洗剤を洗い流してください。
(洗剤成分が残っていると、ウインドスクリーンに亀裂が発生する場合があります。)
- ガソリン、ブレーキ液または洗浄液等の化学物質がメータ、ウインドスクリーン、フェアリング、サイドカバー等の樹脂部品およびヘッドライトにかかると、亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。
- ウインドスクリーンに貼付されているコーションラベルは、はがさないでください。

シートの取扱い

シートをきれいな状態でご使用いただくため次のことをお守りください。

- 汚れを落とす場合は、中性洗剤を使ってやわらかい布かスポンジで汚れを洗い落としてください。
洗浄後は十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。

車のお手入れ

アルミ部品の取扱い

アルミ部品は、塩分などの汚れを嫌います。また、他の金属部品と異なり、傷がつきやすくなっています。取扱いについては必ず次のことにお守りください。

《アルミホイール》

- 砂入り石鹸や硬いブラシは、傷をつけますので使用しないでください。
- 縁石への乗り上げやすり当てはさけてください。

つや消し塗装の取扱い

つや消し塗装部品は、一般的な塗装と取扱いが異なります。

つや消し塗装を維持するため必ず次のことにお守りください。

《お手入れ》

- 汚れを落とす場合は、中性洗剤を使ってやわらかい布かスポンジで汚れを洗い落としてください。
洗浄後は十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。

《取扱い》

- 塗装面にコンパウンドやコンパウンド入りワックスを使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。
- ご不明な点がございましたら、Honda販売店にご相談ください。

エキゾーストパイプの取扱い

エンジン停止直後は、エンジン本体、エキゾーストパイプ、マフラなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

エキゾーストパイプはステンレス鋼を使用していますので、油脂等の汚れが付着したままで、エンジンを始動すると焼けムラが起ります。

《お手入れ》

- 汚れが付着した場合は、ステンレス用台所洗剤を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを洗い落とししてください。洗浄後は、十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。
- 焼けムラをとる場合は、市販の細目のコンパウンドで磨いた後、汚れが付着した場合と同じ要領で汚れを洗い落とししてください。

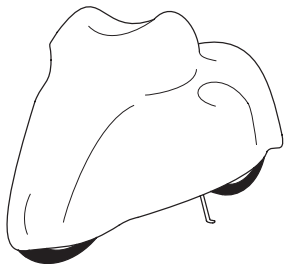
車のお手入れ

保管のしかた

お車はできるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外に保管する場合はボディカバーをかけてください。

知識

- ボディカバーはエンジンやマフラが冷えてからかけてください。



長期間、ご使用にならない場合は次の項目をお守りください。

- 大事なお車をサビから守るために、保管する前にワックスがけを行ってください。また、雨上がりには一度ボディカバーを外し、車体を乾燥させてください。
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため車から取外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は、⊖側ターミナルを外してください。

地球環境の保護について

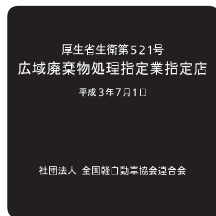
お車および部品等の廃棄をするとき

地球環境を守るため、使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda販売店にご相談ください。

また、将来お車を廃車する場合も同様です。お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

《廃棄二輪車取扱店》

廃棄二輪車取扱店とは(社)全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪車取扱店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。廃棄二輪車取扱店には「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。



廃棄二輪車取扱店の証

地球環境の保護について

《二輪車リサイクルマーク／リサイクル料金》

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。

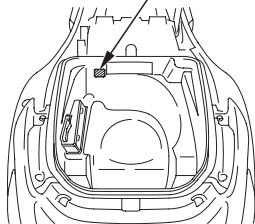
マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、お車をお客様から廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はおお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、トランク内に貼付しています。



二輪車リサイクルマーク



《二輪車リサイクルマークの取扱い》

お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要となります。

マークは車体から、剥がさないでください。

マークの紛失、破損による再発行および販売の取扱いはありません。

リサイクルマークの剥がれ等により、リサイクルマーク付対象車かどうか不明の場合は、下記の(財)自動車リサイクル促進センターホームページおよび二輪車リサイクルコールセンターにてご確認ください。

廃棄二輪車のお取扱いに関しては、最寄の廃棄二輪車取扱店または下記二輪車リサイクルコールセンターまでお問い合わせください。

(財)自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9:30~17:00

(土日祝日、年末年始等を除く)

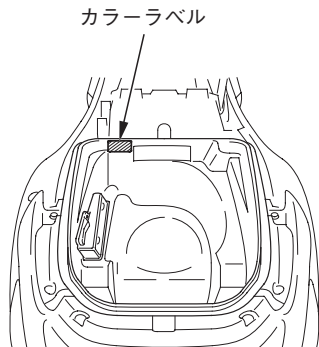
色物部品をご注文のとき

マフラの純正マークについて

色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルはトランク内に貼ってあります。

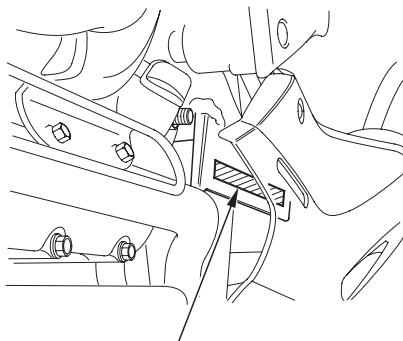
マフラの後部には、Honda純正部品を表す“HONDA”マークが刻印されています。



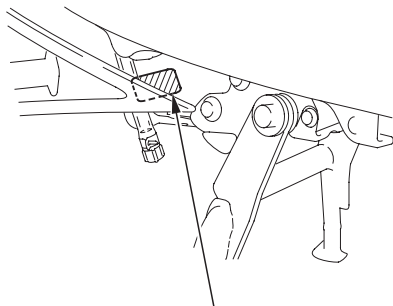
フレーム号機

フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。

また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバープレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。



フレーム号機打刻位置



エンジン号機打刻位置

オーバーヒートしたとき

《オーバーヒートの処置手順》

1. メインスイッチでエンジンを止め、再度メインスイッチを“ON”にします。
このとき、ラジエータの冷却ファンが作動するか、作動音で確認します。確認後、メインスイッチを“OFF”にします。
 - 冷却ファンが作動しない場合：
故障が考えられますので、エンジンをかけず、Honda販売店にご相談ください。
 - 冷却ファンが作動する場合：
メインスイッチが“OFF”の状態、エンジンが冷えるのを待ちます。
2. エンジンが冷えてから、リザーバタンクの冷却水量を確認します。(100 ページ参照)
 - 冷却水が不足していたら、リザーバタンクに補給してください。(101 ページ参照)

3. ラジエータホースなどを点検し、水漏れがないか確認します。
 - 水漏れがある場合：
エンジンをかけず、Honda販売店にご相談ください。
 - 水漏れがない場合：
走行可能です。ただし、異常が再発するときは、Honda販売店にご相談ください。
4. 異常が再発しない場合でも、なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
- 燃料タンクにガソリンはありますか。
- PGM-FI警告灯は点灯していませんか。
点灯している場合は、ただちにHonda販売店にご相談ください。

これらに該当しない場合は、次のことを行ってください。

1. メインスタンドを立てます。
2. パーキングブレーキグリップを手前に引き、後輪をロックします(53ページ参照)。
3. エンジンストップスイッチが“○”(RUN)になっていることを確認します。
4. メインスイッチを“ON”にします。
5. 左ブレーキレバーを強く握り、スロットルグリップを全開にし、スタータスイッチを5秒間押します。
6. 次に66ページの始動要領でエンジンをかけてください。

7. エンジンがかからないときは、一度メインスイッチを“OFF”に戻して10秒以上待ってから、1から6までの手順を繰り返してください。

以上の手順を行ってもエンジンがかからない場合には、お近くのHonda販売店にご相談ください。

故障の修理

- お近くのHonda販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早くHonda販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。

主要諸元 《SILVER WING GT〈600〉ABS》

型	式	EBL-PF02
長	さ	2,285 mm
	幅	770 mm
高	さ	1,430 mm
軸	距	1,600 mm
原 動 機 種 類 / 総 排 気 量		ガソリン・4 サイクル / 0.582 ℓ
車 両 重 量		252 kg 〈 249 kg 〉
乗 車 定 員		2 人
タイヤサイズ	前 輪	120/80-14M/C 58S
	後 輪	150/70-13M/C 64S
最 低 地 上 高		135 mm
燃 料 消 費 率 ※		30.0 km/ℓ (車速60 km/h定地走行テスト値)
最 小 回 転 半 径		2.8 m
圧 縮 比		10.2
最 高 出 力		37 kW (50 PS) / 7,500 rpm
最 大 ト ル ク		55 N·m (5.6 kg·m) / 5,500 rpm
燃 料 タ ン ク 量		16 ℓ

※燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。したがって、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件により異なります。

《 》内は、SILVER WING GT〈600〉の数値です。

点 火 形 式	フル・トランジスタ式	バッテリー点火
点 火 時 期	BTDC12°/1,300 rpm	
アイドリング回転数	1,300 rpm	
点火プラグ	NGK	CR8EH-9
	DENSO	U24FER9
蓄電池（バッテリー）	12V - 10 Ah または 12V - 11 Ah	
機関から変速機までの減速比	1.000	
クラッチ形式	乾式多板シュー式	
変速機形式	ベルト式	
変速機操作方式	自動遠心式	
第一減速比	2.375	
第二減速比	2.533	

サービスデータ

タイヤ空気圧	1人乗車時	前輪	200 kPa (2.00 kgf/cm ²)
		後輪	225 kPa (2.25 kgf/cm ²)
	2人乗車時	前輪	200 kPa (2.00 kgf/cm ²)
		後輪	250 kPa (2.50 kgf/cm ²)
エンジンオイルの量	全容量		2.6 ℓ
	オイルフィルタ 交換時		2.2 ℓ
	オイル交換時		2.0 ℓ
ヒューズ	メインヒューズA		30 A
	メインヒューズB		25 A
	ヒューズ		30 A, 15 A, 10 A 《15A, 10A》
点火プラグの点火すきま			0.8-0.9 mm
エアクリーナエレメント	形 式		ろ紙式(ビスカスタイプ)
電球 (バルブ)	ヘッドライト		12 V - 55 W × 2
	ストップ・テールランプ		12 V - 21/5 W × 2
	フロントウインカランプ		12 V - 21/5 W × 2
	リヤウインカランプ		12 V - 21 W × 2
	ヘッドライトポジションランプ		12 V - 5 W × 2
	ライセンスランプ		12 V - 5 W

《 》内は、SILVER WING GT<600>の数値です。

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、本田技研工業株式会社 お客様相談センターでもお受け致します。

オーハローバイク
全国共通フリーダイヤル **0120-086819** 受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

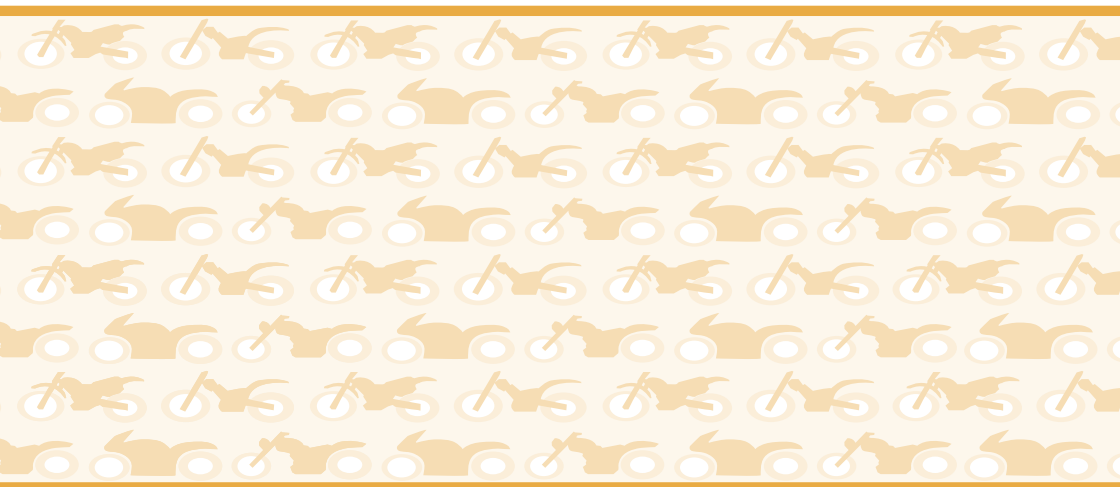
所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車についてお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ②車種名、タイプ名、走行距離
- ③ご購入年月日
- ④販売店名

HONDA

The Power of Dreams



30MGF600
00X30-MGF-6000

Ⓝ Ⓜ 400.2009.05.9
© 2009 本田技研工業株式会社